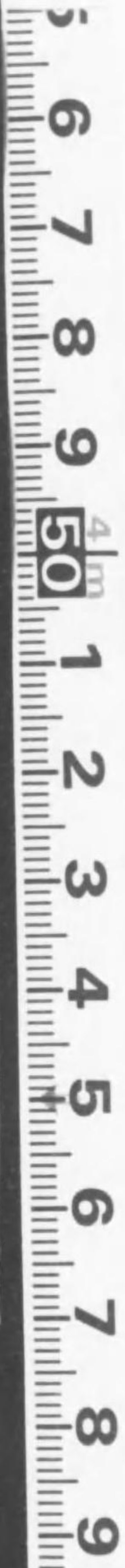


步兵操典改正草案

特66-930



1200800273068



始



特66

~~特66-001~~

930

目次

行進

轉回

不動ノ姿勢

徒手教練

總則

第一章 各個教練

第一部 基本教練

總則

步兵操典改正草案目次

明治

41 3 14

丙六

一 七 七 八 八 十

一

丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁

執銃教練

立銃ニ在ル不動ノ姿勢

銃ノ操法

銃劍ノ着脱

装填及抽彈

射擊

執銃行進

突擊

散兵教練

十七丁

十七丁

十九丁

二十三丁

二十五丁

二十八丁

三十一丁

三十三丁

三十四丁

行進及停止

射擊

第二章 小隊教練

總則

密集教練

小隊ノ編成

整頓

右轉回

銃ノ操法及銃劍ノ着脱

三十五丁

三十六丁

四十一丁

四十一丁

四十二丁

四十三丁

四十五丁

四十九丁

五十丁

又銃及解銃	五十丁
裝填及抽彈	五十三丁
射擊	五十三丁
直行進及行進間ノ右轉回	五十八丁
斜行進	六十二丁
二列ヨリ一列ニ及一列ヨリ二列ニ移ル	六十三丁
突擊	六十四丁
停止	六十五丁

方向變換	六十五丁
側面行進	六十七丁
伍々方向變換	六十八丁
側面行進ヨリ停止及正面向	六十九丁
行進間右(左)向	七十丁
駈歩	七十一丁
橫隊ヨリ側面縱隊ニ及側面縱隊ヨリ橫隊ニ移ル	七十一丁
膝姿及伏姿	七十二丁

途步

七十三丁

解散及集合

七十四丁

散開教練

七十五丁

散開

七十六丁

散兵線ノ運動

七十九丁

散兵線ノ射撃

八十三丁

集合及併台

九十一丁

第三章 中隊教練

九十二丁

總則

九十二丁

密集教練

九十三丁

中隊ノ編成

九十三丁

横隊

九十四丁

横隊ノ運動

九十四丁

側面縦隊

九十七丁

中隊縦隊

九十八丁

横隊ヨリ中隊縦隊ニ移ル

百丁

中隊縦隊ヨリ横隊ニ移ル

百二丁

側面縦隊ヨリ中隊縦隊ニ及中隊縦

隊ヨリ側面縦隊ニ移ル	百四丁
中隊縦隊ノ運動	百六丁
整頓	百九丁
銃ノ操法	百十丁
射撃	百十丁
銃劍突撃	百十一丁
散開教練	百十二丁
散開及散兵線ノ運動	百十二丁
射撃	百十三丁

散兵線ノ増加	百十四丁
援隊	百十五丁
集合及併合	百十六丁
第四章 大隊教練	百十七丁
總則	百十七丁
大隊ノ密集隊形	百十八丁
整頓	百二十二丁
一ノ隊形ヨリ他ノ隊形ニ移ル	百二十三丁
密集隊形ノ運動	百二十四丁

展開

第五章 聯隊教練

總則

聯隊ノ集合隊形

集合隊形ノ運動

展開

第六章 旅團教練

總則

旅團ノ集合隊形

百二十六丁

百二十六丁

百二十九丁

百二十九丁

百三十一丁

百三十二丁

百三十三丁

百三十三丁

百三十四丁

展開

百三十四丁

歩兵操典改正草案

總則

第一 教練ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ戰鬥ノ用ニ供スルニ在リ故ニ諸般ノ演習ヲシテ戰鬥ニ適切ナラシムルヲ要ス抑々戰鬥ニ緊要無二ノ要求ハ如何ナル状態ニ在リテモ克ク嚴正ナル軍紀及秩序ヲ維持スルニ在リ練兵場並ニ野外ニ於ケル諸演習ハ軍隊ニ此特別ナル性質ヲ養成スルヲ以テ主眼トス

戰鬥ハ百事單簡ナルモノ能ク成功ヲ期スヘシ故ニ少數單一ナル制式ヲ訓練シ應用スルヲ以テ足レリトス然レトモ此制式ハ嚴格

ニ修習シ十分確實ニ施行スルヲ要ス而シテ之カ應用ノ準繩タルヘキモノハ本操典ニ示セル法則アルノミ操典ハ實ニ此主旨ヲ以テ制式ヲ限定シ且ツ單一ナル原則ヲ示シタルモノニシテ平戰兩時ニ相通スルモノナリ苟モ巧飾ニ涉ルカ如キハ嚴禁トス

第二 中隊長以上ノ諸隊長ハ操典ヲ遵奉シテ其部下ヲ教育シ操典ノ要求ヲ其精神ニ從ヒ充足スルノ責任ヲ有ス而シテ其教育方法ノ選定ニ就テハ成ル可ク制限ヲ受ケサルモノトス、又直轄上官ハ絶エス部下教練ノ實施ヲ監督シ若シ其過失又ハ不進歩ヲ發見スルトキハ直ニ之ヲ矯正スルノ義務ヲ有ス

第二 中隊ニ於テハ歩兵固有ノ教練ヲ修了スヘキモノトス大隊ニ於テハ戰鬪教練ノ確固タル基礎ヲ成ス各中隊諸般ノ戰況ニ應シテ協同動作スルハ歩兵諸戰法ノ基礎ナリトス
聯隊ニ於テハ教育及指揮ニ關スル諸事ヲ統一シタル方針ニ由リテ養成ス

聯隊及旅團ニ於ケル演習ニ在リテハ各部隊ノ協同動作ヲ訓練シ又成ル可ク他兵種トノ協同動作ヲモ修習スヘキモノトス

第四 同一ナル教練ヲ長ク續行スルトキハ兵卒ノ精神及身體ヲ倦勞セシム故ニ演習ヲ交換シ又其時間及方法ハ兵卒ノ能力及

體力ニ適當スル如ク定ムルヲ要ス否ラサレハ避クヘカラサル懈怠ニ由リテ軍紀ヲ害スルニ至ル

第五 練兵場ニ於テハ各種ノ演習ヲ行ヒ得サルカ故ニ成ル可ク多ク野外ニ於テ諸種ノ演習ヲ行ヒ以テ教練ノ完成ヲ期スヘシ

第六 戰時人員ノ部隊ヲ以テ行フ演習ハ大ナル價值アリトス故ニ之ヲ行フヘキ機會ヲ得ル毎ニ練兵場及野外ニ於テ之ヲ施行スヘシ

第七 號令ハ何等ノ場合ヲ間ハス同一ノ方法及活音ヲ以テ下ササルヘカラス號令活潑ナルトキハ隨テ動作ヲ活潑ナラシム而

シテ號令ヲ豫令及動令ニ分ツヘキ場合ニ在リテハ豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ活潑ニ短ク發唱シ其間ニ適當ノ時間ヲ存スヘシ操典中豫令ハ草書ヲ以テ區別ス

將校ハ行進或ハ停止ヲ指示スルニ刀若クハ手ヲ以テ記號ヲ與フルコトヲ得而シテ行進ニハ高ク之ヲ舉ケ停止ニハ之ヲ舉ケテ直ニ下ス

將校ハ小笛ヲ以テ射擊中止ノ號令ニ換ヘ又射擊セサル時ニ限リ嗣後ノ教示ヲ與フル爲部下ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第八 操典ニ掲クル號令及記號ハ必ス遵用スヘキモノトス其

號令ニシテ意ヲ盡ササルニ至リ始メテ命令ヲ用フヘシ

第一部 基本教練

第一章 各個教練

總則

第九

各個教練ハ部隊教練ノ基礎ナリ故ニ綿密ニ意ヲ用ヒ體操ヲ補助ト爲シ十分嚴格ニ教授スルヲ要ス蓋シ各個教練完全ナルニ非サレハ部隊教練ノ正確ヲ要求スルヲ得サレハナリ新兵ノ教育不良ナルトキハ服役間多クハ之ヲ矯正スルヲ得ス最初ノ教授ニ當リ感染シタル弊習ハ常ニ固着シテ全ク除去スルコト難ク各個教練ノ不完全ハ部隊教練ニ依リテ補綴スルコトモ亦

各個教練

難シ

兵卒ヲ教育シテ熟達セシムルニハ演習ノ經過急速ナラサルト復習ヲ厭ハサルトニ在リ

徒手教練

不動ノ姿勢

第十 不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

氣ヲ着ケ

兩踵ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ着ケ兩足ハ約六十度ニ開キテ齊シク外側ニ向ケ兩膝ハ凝ラスシテ之ヲ伸ハシ上體ハ正シク腰ノ上ニ

落チ着ケ且ツ少シク前ニ傾ケ兩肩ヲ後方ニ引キ一様ニ之ヲ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ掌ヲ股ニ接シ指ハ輕ク屈メテ之ヲ並ヘ中指ヲ袴ノ縫目ニ當テ頭ヲ正シク且ツ自然ニ保チテ頸ヲ真直ニシ腮ハ輕ク頸ニ近ツケ兩眼ハ前面ヲ直視ス

兩足ヲ正シク置クコトハ甚緊要ナリ何トナレハ兩足ノ位置不正ナルトキハ隨テ肩ノ位置偏移スルモノナレハナリ

第十一 休憩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

休メ

姿勢ト動カサルトニ意ヲ留ムルコトナク片足ヲ舊位ニ置キ其場

ニ立チテ休憩ス

「休メ」ノ號令アルトキノ外教練中隨意ニ動クヲ得ス又休憩中ト雖談話スルヲ禁ス

轉回

第十一 右(左)向或ハ半右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號

令ヲ下ス

右(左)向け 右(左)

或ハ

半ハ右(左)向け 右(左)

左足尖ト右足トヲ少シク上ケ左踵ニテ九十度或ハ四十五度右(左)ニ廻ハリ右踵ヲ左踵ニ着ケテ同線上ニ揃フ

第十二 右轉回ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

廻はれ 右

右足ヲ其方向ニ引キ足尖ヲ左踵ニ接ス

兩足尖ヲ少シク上ケ脚ヲ屈ムルコトナク兩踵ニテ後ロニ廻ハリ次ニ右踵ヲ左踵ニ引着ク

行進

第十四 速歩ニ於テハ一步ノ長サヲ踵ヨリ踵マテ七十五珊

米トシ其速度ハ一分時間ニ百十四步トス
速歩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

ホヘ 進メ

左脚ヲ輕ク屈メテ前ニ出シ足尖ヲ僅ニ外側ニ向ケ上體ヲ少シク
前ニ傾ケ右足ヨリ七十五珊米ノ所ニ脚ヲ伸ハシツ、故ラニ地面
ヲ敲クコトナク蹈着ケ同時ニ膈ヲ地面ノ方ニ壓シテ伸ハシ全ク
體ノ重ミヲ蹈着ケタル足ノ上ニ移ス左足ヲ蹈着クルト同時ニ右
踵ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就テ說キ示シ、ト同法ニテ右脚ヲ前ニ出
シ同距離ノ所ニ蹈着ケテ行進ヲ續行シ兩足ヲ交叉スルコトナク

膝ヲ必要ヨリ高く上クルコトナク兩肩ヲ廻ハスコトナク頭ヲ眞
直ニ保チ兩臂ヲ自然ニ振動ス

第十五 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊 止レ

後ナル足ヲ前ナル足ニ引着ケテ止ル

第十六 駈歩ニ於テハ一步ノ長サヲ八十五珊米トシ其速度

ハ一分時間ニ百七十步ヲ基準トス

駈歩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

並歩 進メ

豫令ニテ兩手ヲ握リ腰ノ高サニ上ケ肘ヲ後ロニス

動令ニテ左脚ヲ前ニ出ス其脚ヲ少シク屈メテ僅ニ膝ヲ上ケ足尖ヨリ下シテ右足ヨリ八十五珊米ノ所ニ蹈着ケ次ニ左脚ト同法ヲ以テ右脚ヲ前ニ出シ常ニ體ノ重ミヲ蹈着ケタル足ニ移シ兩肘ヲ自然ニ振動シ續テ行進ス

「分隊止レ」或ハ「速歩進メ」ノ號令ニテ停止シ或ハ速歩ニ移リ兩手ヲ下ス但シ第十五ニ於ケルヨリモ二舉動ヲ増ス行進間ノ右轉回モ亦之ニ準ス

第十七

行進シアルトキ足踏ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ

下ス

足踏み 進メ

進ムコトナク少シク膝ヲ屈メ交々兩足ヲ蹈着ケテ調子ヲ取ル再ヒ行進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

おへ 進メ

第十八

行進間右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向けおへ 進メ

左(右)足ヲ前ニ蹈着ケ其足尖ニテ體ヲ右(左)方ニ廻ハシ右(左)足ヲ新方向ニ踏出シ行進ス

第十九

行進間斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜めに右(左)へ 進メ

左(右)足ヲ前ニ蹈着ケ其足尖ニテ體ヲ半右(左)方ニ廻ハシ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

第二十

行進間右轉回ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

廻はれ右へ 止レ

或ハ

廻はれ右方へ 進メ

左足ヲ前ニ蹈着ケ其足尖ニテ後ロニ廻ハリ右足ヲ左足ニ引着ケ

其儘止リ或ハ更ニ左足ヨリ行進ス

執銃教練

第二十一

執銃教練ハ徒手教練ニ略熟シタル後始メテ之ヲ

行フヲ要ス

停止間ノ轉回及銃ヲ擔ハサル行進ヲ行フニハ右手ヲ以テ少シク銃ヲ上ケ腰ニ支ヘ運動終レハ直ニ之ヲ地ニ置ク

立銃ニ在ル不動ノ姿勢

第二十二

立銃ニ於テ不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號

令ヲ下ス

氣ヲ着ケ

不動ノ姿勢ヲ取リ右手ヲ以テ銃ヲ握ル其法銃身ヲ拇指ト食指トノ間ニ置キ其他ノ三指ハ食指ト共ニ閉チ輕ク屈メテ銃床ニ添フ銃口ハ右臂ヨリ一握程(約十珊米)ヲ隔テ銃身ヲ後ロニシ床尾踵ヲ右足尖ノ傍ニ置キ銃身ヲ真直ニ保ツ

第二十二 立銃ニ在ルトキ休憩セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

休メ

第十一ニ同シ但シ照星ヲ摩擦セサル如ク銃ヲ保持ス

銃ノ操法

第二十四 總テ銃ノ操法ハ臂及手ヲ以テ確實ニ操作シ兩手

同時ニ銃ヲ放ツコトナク他ノ體部ハ不動ノ姿勢ニ在ルヲ要ス故ラニ銃ヲ敲キ又ハ床尾踵ヲ強ク地ニ撞着スルヲ禁ス各舉動ハ速歩ノ速度ニ同シ

第二十五 立銃ヨリ擔銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

樁ヘ銃

第一動、右手ヲ以テ銃ヲ握リ肩ノ高サニ上ケ銃身ヲ右ニシテ之

ヲ真直ニシ同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ肘ヲ下ケテ輕ク體ニ接ス

第二動、左手ヲ以テ少シク銃ヲ上ケ銃身ヲ半ハ前方ニ向ケ右手ヲ伸ハシテ床尾鋌ヲ握リ食指ト中指トノ間ニ床尾踵ヲ置ク

第三動、右手ヲ以テ銃ヲ右肩ニ擔ヒ銃身ヲ上ニシ左手ヲ遊底ノ上ニ置キ右肘ハ輕ク體ニ接シ床尾翻鑲ヲ體ヨリ一握程離シ銃ハ上衣ノ釦線ト平行セシメ槓杆ノ高サヲ概子其第一、第二釦ノ中央ニス

第四動、左手ヲ下ス

第二十六 擔銃ヨリ立銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

立て 銃

第一動、右手ヲ伸ハシテ銃ヲ下ケ銃身ヲ半ハ右方ニ向ケ之ヲ真直ニシ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ肘ヲ下ケテ輕ク體ニ接ス

第二動、左手ヲ以テ銃ヲ下ケ銃身ヲ右ニシ右手ヲ以テ木被部ヲ握ル

第三動、銃身ヲ後ロニシ之ヲ提ケ小指ヲ木被ノ上ニ當テ、右腰ニ支ヘ同時ニ左手ヲ下ス

第四動、銃ヲ地上ニ置ク

第二十七

立銃ヨリ捧銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下

ス

持け 銃

第一動、右手ヲ以テ銃ヲ上ケ體ノ中央前ニ持來シ銃身ヲ後ロニシ之ヲ真直ニス同時ニ左手ヲ以テ木被ノ下端ニ接シテ銃ヲ握リ拇指ヲ銃床ニ沿ウテ伸ハシ前臂ヲ輕ク體ニ着ケ殆ント之ヲ水平ニス

第二動、右手ヲ以テ輕ク銃把ヲ握ル

第二十八

捧銃ヨリ立銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下

ス

立て 銃

第一動、右手ヲ以テ木被部ヲ握リ右肘ヲ輕ク體ニ接ス

第二動、右手ヲ以テ銃ヲ下ケ小指ヲ木被ノ上ニ當テ、右腰ニ支へ同時ニ左手ヲ下ス

第三動、銃ヲ地上ニ置ク

銃劍ノ着脱

第二十九

銃劍ノ着脱ハ停止行進間共ニ之ヲ行フヲ得着脱

終レハ銃ヲ舊位ニ復スヘシ

銃劍ノ着脱ハ兵卒ヲシテ其方法ヲ知ラシムルヲ以テ足レリトス

第二十

着劍ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

着ケ劍

立銃ニ在ルトキハ右手ヲ以テ銃ヲ左ニ傾ケ銃身ヲ少シク右ニシ
銃口ヲ概子體ノ中央ニシ左手ヲ以テ逆ニ銃劍ノ柄ヲ握リ銃劍ヲ
抜イテ確カニ装着シ兩手ヲ以テ銃ヲ起シ立銃ノ位置ニ復ス

第二十一

脱劍ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

脱レ劍

立銃ニ在ルトキハ着劍ト同法ヲ以テ銃ヲ左ニ傾ケ左手ニテ劍柄
ヲ握リ右手ヲ上ケ其拇指ニテ劍柄ノ駐筈頭ヲ押シ左手ニテ劍ヲ
脱シ之ヲ右方ニ倒シテ劍尖ヲ下ニシ右手ノ食指、中指ト拇指ト
ニテ劍刃ヲ挟ミ持テ其餘ノ指ニテ銃ヲ保チ左手ヲ翻シテ柄ヲ握
リ眼ヲ鯉口ニ注キテ劍ヲ全ク鞘ニ納メ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握
リ右手ヲ下ケテ木被部ヲ握リ兩手ヲ以テ銃ヲ起シ立銃ノ位置ニ
復ス

裝填及抽彈

第二十二

立銃ヨリ裝填或ハ抽彈ヲ爲サシムルニハ左ノ號

令ヲ下ス

彈藥ヲ込メ

或ハ

彈藥ヲ抽ケ

半右向ヲ爲シツ、(頭ヲ正面ニ保ツ)右足ヲ新線上右方へ約半歩ノ所ニ蹈開キ上體ハ此動作ニ伴ヒ自然ノ方向ニ保チ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツ、前ニ倒シ左手ヲ以テ概子銃ノ重點部ヲ握リ其指ハ縱溝内ニ置キ銃口ヲ眼ノ高サニシ床鼻ヲ右乳ヨリ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接ス

裝填スルニハ右手ヲ以テ下方ヨリ槓杆ヲ握リ之ヲ起シツ、十分後方ニ引キ、右手ヲ以テ彈藥盒ヨリ彈藥ヲ撮ミ出シ彈頭ヲ前ニシ眼ヲ注キテ挿彈子ヲ挿彈子溝ニ嵌入シ、右手ノ拇指頭ヲ彈藥筒ノ後部ニ當テ彈倉内ニ壓入シ、右手ヲ以テ槓杆ヲ渥リ遊底ヲ確實ニ閉チ眼ハ前面ヲ直視シ銃ヲ安全裝置ニス(右掌ヲ以テ擊莖駐脚ヲ押シ右ニ旋回ス)

次ニ右手ヲ以テ木被部ヲ握リ正面ニ向キツツ立銃ヲ爲ス抽彈スルニハ銃ヲ擊發裝置ニシ(右掌ヲ以テ擊莖駐脚ヲ押シ左ニ旋回ス)左手ヲ尾筒ノ部ニ持チ來タシ其四指ヲ伸ハシテ方窓

部ニ當ツルカ如クシ此部ニ注目シツ、徐カニ遊底ヲ進退シテ彈藥ヲ抽出シ之ヲ彈藥盒ニ收ム彈藥ヲ抽出シ盡セハ左手ノ中指ト無名指トニテ受筒飯ヲ壓シテ遊底ヲ閉チ引鐵ヲ下ロシ正面ニ向キツ、立銃ヲ爲ス

裝填ハ屢々教習シテ熟達スルヲ要ス是レ兵卒ハ如何ナル場合ヲ問ハス確實且ツ迅速ニ行フヲ要スレハナリ

射擊

第二十二 射擊ノ動作ハ如何ナル場合ニアリテモ正確ニ實施シ得ル如ク熟達セシムヘシ据銃、照準、擊發及照尺ノ用法ハ

步兵射擊教範ニ從フヘシ

第二十四 立銃ヨリ射擊ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令

ヲ下ス

立射(立射) 伏射(伏射)の格へ銃

立射ノ姿勢ハ裝填ニ於ケルカ如ク銃ヲ構ヘ右手ヲ以テ銃把ヲ握ル膝射ノ姿勢ハ半右向ヲ爲シツツ右足尖ヲ左足ノ延線上ニシテ其踵ヨリ約半歩後ロニ引ク、右脚ヲ左足ノ方向ト殆ント直角ナルカ如ク平ニ地ニ着ケ臀部ヲ右足ニ載セ左脚ヲ立テ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ前ニ倒シ左手ニテ立射ノ如ク保持シ其前臂ヲ左膝上

ニ置キ床尾飯ヲ右股ノ内部ニ當テ次ニ右手ヲ以テ銃把ヲ握リ上體ヲ自然ノ方向ニ眞直ニ保ツ

伏射ノ姿勢ハ半右向ヲ爲シ銃床尾ヲ前方約一步ノ所ニ出ス、其方向ニ於テ兩膝ト左手トヲ地ニ着ケテ（上體ヲ發射方向ニ對シ約三十度ニ）伏臥シ立射ノ如ク銃ヲ保持シ銃把ヲ腮ノ稍前方ニ在ル如クシ兩肘ヲ地ニ支フ

何レノ姿勢ニ在リテモ頭ヲ正面ニ保チ銃口ヲ眼ノ高サニシ銃ヲ擊發裝置ニシ右手ノ食指ヲ用心鐵ノ内ニ入レテ伸ハス裝填シアラサルトキハ銃ヲ構ヘタル後直ニ裝填ス

第二十五

射擊ヲ止ムルニハ左ノ號令ヲ下ス

ウツクリヤ
擊方止メ

銃ヲ安全裝置ニシ照尺ヲ舊位ニ復シ立銃ヲ爲ス

執銃行進

第二十六

執銃行進ニ在リテハ「進メ」ノ號令ニテ銃ヲ擔ヒ行進中ハ左臂ヲ自然ニ振動ス「止レ」ノ號令ニテ停止シ立銃ヲ爲ス

蹠歩ヲ行フトキハ「竝歩」ノ豫令ニテ執銃ヲ爲シ劍鞘ヲ握ル

第二十七

行進シアルトキ膝姿（伏姿）ヲ取ラシムルニハ左

ノ號令ヲ下ス

膝姿チライシカノセ（伏姿）

膝姿ヲ取ルニハ左足ヲ前ニ踏出シ右脚ヲ地ニ着ケ膝射ノトキニ於ケル如ク銃ヲ下ケ之ヲ右膝ノ前ニ立テ銃身ヲ後ロニシ右手ニテ木被部ヲ握リ左手ヲ左股ノ上ニ置ク
伏姿ヲ取ルニハ停止シ立銃ヲ爲シ伏射ノトキニ於ケル如ク伏臥シ木被部ニ就キ銃ヲ左前臂ニ載セ槓杆ヲ上ニス
停止間ニ在リテモ亦之ニ準ス

第二十八

膝姿（伏姿）ニ在ルトキ起立或ハ前進セシムルニ

ハ左ノ號令ヲ下ス

起テ

或ハ

オヘ 進メ

「起テ」或ハ「オヘ」ノ號令ニテ起立シテ立銃ヲ爲ス

突 擊

第二十九

突撃ヲ爲サシムルニハ着劍セシメタル後左ノ號

令ヲ下ス

突撃ニ 進メ

右手ヲ以テ木被部ニ就キ銃ヲ提ケ（擔銃ニ在ルトキハ第二十六ニ準シ）床尾飯ヲ少シク地面ヨリ離シ銃口ヲ概テ右肩ノ前方ニ在ラシメ駈歩ト同要領ニテ行進シ「分隊止レ」ノ號令ニテ停止シ立射ノ構ヲ爲ス

散兵教練

第四十 散兵教練ノ目的ハ兵卒ヲシテ散兵ノ動作即チ地形ヲ利用シテ行進シ停止シ及射撃スルコトニ熟達セシムルニ在リ

第四十一 新兵略行進、銃ノ操法、裝填、及射撃ノ方法

チ了得スルトキハ散兵教練ヲ始ムヘシ之カ爲最初ニ平易ナル地形ニ於テ故參兵卒ノ小隊部ヲ用ヒ散開シテ戰闘スル要領ヲ理解セシムヘシ

行進及停止

第四十二 散兵ハ常ニ銃ヲ安全裝置ニシ適宜ニ之ヲ提ケ銃口ヲ上ニシ自由ナル姿勢ヲ以テ運動シ又停止スルトキハ銃ノ最大威力ヲ顯ハシ得ヘキ位置ヲ選ヒ成ル可ク身體ヲ遮蔽スルヲ要ス

第四十三 散兵ハ諸種ノ障礙物ヲ超越攀登スルコトニ熟ス

ヘシ其他遮蔽シテ潜行シ或ハ僅ニ位置ヲ偏シ或ハ身體ヲ屈シ或ハ匍匐シテ地物ヲ利用スルヲ要ス然レトモ多クノ場合ニ於テハ捷路ヲ取ルノ最モ利アルコトヲ銘心スヘシ

射 擊

第四十四 散兵ノ射擊ハ通常速度ノ迅速ニ由リテ効果ヲ求ムルヲ避ケ如何ナル場合ニ在リテモ射擊ノ諸法則ヲ嚴守シ照準ヲ精密ニシ熟慮シテ射擊スルコトニ由リ効果ヲ得ル如ク養成スヘシ

第四十五 諸種ノ景況及姿勢ニ在リテ裝填ト共ニ射擊ノ方

法ヲ懇篤ニ教習スルヲ要ス而シテ伏姿勢又ハ遮蔽物ノ背後或ハ地物ニ依托スル射擊姿勢ノ適用ハ各兵卒ノ體格、地形、目標ノ種類及戰鬥ノ景況ニ關スルモノトス

第四十六 射擊ニ臨ミ目標發見ノ神速、適當ナル位置ノ選定、地物ノ利用、裝填ノ迅速、照尺裝置ノ正確、諸種ノ姿勢及各距離ニ應スル据銃ノ敏捷、照準時間ノ短少、精神ノ沈着並ニ目視困難ナル目標ニ對スル照準ノ熟練等ハ散兵ノ絶エス練習スヘキ要件ナリ

第四十七 銃ヲ地物ニ依托スルハ射擊ヲ確實ナラシムルニ

大ナル價值アルモノトス

第四十八

依托射撃ニハ左手ヲ以テ銃床尾ヲ握リ拇指ヲ内側ニ當テ他ノ四指ヲ外側ニ當テテ銃ヲ肩ニ引着ケ右手ヲ以テ強ク銃把ヲ握リ射撃スルコトヲ得

第四十九

膝射ノ姿勢ニ在リテ散兵ハ右足尖ヲ立テ臀部ヲ右踵上ニ托シ或ハ臀部ヲ右踵ヨリ上ケ或ハ兩膝ヲ開キテ地ニ着ケ或ハ兩脚ヲ前ニ出シ臀部ヲ地ニ着ケ又左手ノ掌ヲ用心鐵ニ接シテ之ヲ内方ニ向ケ或ハ左肘ヲ膝ヨリ離シテ立射ノ如クスルトヲ得

第五十

樹木ノ後方ニ在リテ立射若クハ膝射ヲ爲ストキハ成ル可ク右肩ヲ後ロニシ左手ノ前臂ヲ樹幹ニ托シ銃ヲ掌裡ニ置キ射撃ス然レトモ樹木ハ僅ニ前面ヲ遮蔽シ側方ヲ遮蔽スルコトナシ故ニ散兵ハ伏射ニテ自由ナル射撃界ヲ有セサルトキノミ此射撃ヲ施行スルモノトス

第五十一

胸牆ニ據ル射撃ハ身體ノ左側面又ハ胸部ヲ内斜面ニ接シ左肘或ハ兩肘ヲ臂坐上ニ置キ銃ヲ胸牆ニ托ス

第五十二

牆壁、溝壕、僅少ナル凹凸及生籬等ヲ利用シ敵眼及敵彈ヲ遮蔽シ或ハ銃ヲ依托シ又ハ安全ニ裝填スルコトヲ教

フヘシ

第五十二 兵卒低キ姿勢ニテ自由ナル射撃界ヲ得サルトキハ發射ノ際ニノミ巧ミニ必要ナル高キ姿勢ヲ取ルモノトス

第五十四 遮蔽ノ價值ヲ理解セシムル爲散兵ヲ相對セル位

置ニ於テ教習シ兵卒ヲシテ諸種ノ場合ニ於テ一目其地形ノ利害ヲ判別シ之ヲ應用スルニ熟セシムヘシ

地物應用ノ要領ハ射撃ノ効力ヲ主トシ次ニ蔽遮ノ効用ヲ顧慮スルニ在リ

第五十五 散兵ハ停止間概テ伏臥スルヲ要ス然レトモ平時

演習ノ際衛生上等ノ顧慮ヨリ時トシテハ伏射又ハ膝射ノ姿勢ヲモ取ラシメサルコトアリ斯ノ如キ場合ニ在リテハ指揮官ハ兵卒ニ如何ナル理由ニ因リ實際ニ反スル動作ヲ爲スカヲ明瞭ニ理解セシムルヲ要ス

第五十六 以上ノ演習ト同時ニ射撃ノ學科ヲ實地ニ施シ且ツ距離測量ヲ行フヘシ

第二章 小隊教練

總則

第五十七 小隊教練ハ中隊編入ノ準備ヲ爲スヲ以テ目的ト

ス
第五十八 小隊長ハ教練ニ適當ト認ムル所ニ占位スルヲ要ス

密集教練

第五十九 新兵ノ各個教練ヲ終ヘタル後小隊教練ニ移ル爲若干ノ新兵ヲ以テ一列或ハ二列ノ分隊ニ編成シ小隊ノ一部トシテ第二章ヲ施行ス但シ號令中小隊ノ語ヲ分隊ニ換フ小隊ノ運動ニ在リテハ背向ニ於ケルト又ハ伍ノ混淆シタル場合ニ於ケルトニ拘ラス常ニ秩序ト整正トヲ維持セサルヘカラ

ス
第六十 停止間ニ於ケル隊形及方向ノ變換ハ銃ヲ擔フコトナク歩度ヲ伸ハシテ行フモノトス若シ駈歩ヲ以テ之ヲ行フヲ要スルトキハ豫令ノ次ニ「駈歩」ノ號令ヲ加フヘシ而シテ行進間ニ在リテハ常ニ駈歩ヲ用フ此規則ハ中隊ニモ亦適用ス

小隊ノ編成

第六十一 小隊ハ兵卒身幹ノ順序ニ從ヒ七十五珊米（前列兵ノ背若クハ背囊ヨリ）ノ距離ヲ隔テテ二列ニ編成シ其前後ニ立チタル二人ヲ伍ト謂フ各伍中其長大ナル兵卒ヲ第一列ニ置ク

小隊ノ兵員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺伍ト謂フ
 上等兵ハ概テ身幹ノ順序ニ從ヒテ小隊中ニ配賦ス
 後列兵ハ正シク前列兵ニ重ナリ同方向ニ位置ス
 各兵卒ノ間隔ハ肘々互ニ接觸スルコトナク銃ノ使用及運動ヲ妨
 ケサルヲ要ス（此間隔ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張リタルト
 キ輕ク左隣兵ノ右臂ニ觸ルルヲ度トス）
 小隊ノ各伍ハ第一列ニ在リテ右ヨリ左ニ番號ヲ附シ之ヲ小隊ノ
 正面ト爲ス

小隊ヲ分チテ若干ノ分隊ト爲シ小隊中ニ於テ右翼ヨリ順序ニ番
 號ヲ附ス其分隊ノ兵員ハ四乃至八伍トス
 小隊ノ兩翼前列ニ各一名ノ下士ヲ置ク其右翼ニ在ル者ヲ右翼下
 士ト謂ヒ左翼ニ在ル者ヲ左翼下士ト謂フ其他ノ下士ハ分隊ノ中
 央後、後列ヨリ二步ノ地ニ位置ス之ヲ押伍ト謂フ以上ノ下士ハ
 散開隊形ニ於テハ分隊ヲ指揮ス下士在ラサルトキハ上等兵ヲ以
 テ之ニ代フ

整頓

第六十一 整頓完全ナルトキ各兵卒ハ整頓線上ニ正規ノ姿
 勢ヲ取り頭ヲ右（左）轉スルトキ右（左）眼ヲ以テ其右（左）隣兵ヲ

目視シ他眼ヲ以テ全線ヲ通視スルヲ得ルモノナリ
 兵卒整頓線ニ就クトキハ頭又ハ上體ヲ前後ニ出スコトナク正シ
 キ姿勢ヲ以テスルヲ要ス若シ兵卒中足ノ位置正シカラサル者ア
 ルトキハ之カ爲兩肩整頓線ニ在ラスシテ其害自己ニ止ラス必ス
 隣兵ニ及フモノナリスノ如キ者ハ先ツ兩足ヲ見シメテ之ヲ修正
 シ遂ニ各兵卒ヲシテ整頓ノ要領ヲ會得シ其正否ヲ自ラ識別シ得
 ルニ至ラシムヘシ

第六十二 小隊ヲ整頓線ニ就カシムルニハ先ツ兩翼下士ヲ

其線上ニ出ス之カ爲左ノ號令ヲ下ス

嚮導(何)步前へ

兩翼下士ハ銃ヲ擔フコトナク指示セラレタル步數ヲケ前進シ小
 隊長ハ其位置ヲ正ス
 次ニ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ 準へ

直レ

「準へ」ノ號令ニテ小隊ハ銃ヲ擔ハスシテ前進シ最後ノ一步ヲ縮
 メ少シク整頓線ノ後方ニ止リ次ニ頭ヲ右(左)ニ廻ハシ肩ヲ屈ム
 ルコトナク小歩ニテ靜ニ整頓線ニ就キ銃ヲ地ニ置ク但シ後列及

押伍列ハ先ツ正シク前方ノ兵卒ニ重ナリテ距離ヲ取リ然ル後右
(左)方ニ整頓ス

右(左)翼下士ノ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲左(右)翼下士ヲ目標
トシ先ツ己ニ近キ二三兵卒ノ位置ヲ正ス要スレハ逐次ニ整頓ヲ
正ス

左(右)翼下士ハ要スレハ己ニ近キ二三兵卒ノ位置ヲ正シ以テ前
列ノ整頓ヲ補助ス

「直レ」ノ號令ニテ兵卒ハ頭ヲ前面ニス

第六十四 小隊ノ整頓ヲ正スニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ 準へ

直レ

右(左)翼下士ハ左(右)翼下士ヲ目標トシテ整頓ヲ正ス

右轉回

第六十五 小隊ヲ正(背)面ヨリ背(正)面ニ向カシムルニハ

左ノ號令ヲ下ス

廻はれ 右

小隊ハ背(正)面ニ向キ缺伍及翼下士ハ前列ニ就ク

第六十六 停止或ハ行進シアルトキ要スレハ左ノ號令ヲ以

テ押伍列ヲ後方ニ移スコトヲ得

押伍後トヘ

各押伍ハ駟歩ニテ最近ノ翼ヲ經テ後列ノ後方ニ到リ舊位ニ對ス

銃ノ操法及銃劍ノ着脱

第六十七

銃ノ操法ハ小隊齊一ニ行フヲ要ス

銃劍ノ着脱ハ各自成ル可ク速ニ施行スルモノトス

又銃及解銃

第六十八

又銃ヲ爲サシムルニハ銃劍ヲ附着セシメタル後

左ノ號令ヲ下ス

組メ銃

奇數伍ノ前列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ銃身ヲ前ニシツ、
床尾踵ヲ右足尖ヨリ床尾飯ノ三倍タケ前ニ出シ右手ヲ放チ銃ヲ
左方ニ傾ク

偶數伍ノ前列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ床尾踵ヲ左足尖ヨ
リ床尾飯ノ三倍タケ前ニ出シ銃身ヲ後ロニシ右手ヲ放チ銃ヲ右
方ニ傾ケ右隣兵ノ劍鏑ト交叉ス

奇數伍ノ後列兵ハ左手ヲ以テ下帶ノ上ヲ握リ兩手ヲ以テ銃ヲ上

ケ右足ヲ蹈出シ既ニ組ミタル前列兵ノ劍鐔ニ交叉シ床尾踵ヲ左隣兵トノ間隔ノ中央前ニ置ク

偶數伍ノ後列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ銃身ヲ右斜ニシ左足ヲ蹈出シ其照星下部ヲ既ニ組ミタル劍鐔ノ左ニ寄せ掛ケ銃ハ奇數伍ノ後列兵ノ銃ト平行ニス

要スレハ銃劍ヲ附着スルコトナク棚杖ヲ以テ又銃スルヲ得

第六十九

又銃ヲ解カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解ケ銃

偶數伍ノ後列兵ハ左足ヲ蹈出シ右手ヲ以テ其銃ヲ取り其他ノ三

名(奇數伍ノ後列兵ハ右足ヲ蹈出シ)ハ左手ヲ以テ上帶ノ下右手ヲ以テ木被部ヲ握リ銃ヲ上ケ交叉ヲ解キ立銃ヲ爲ス

裝填及抽彈

第七十

裝填及抽彈ハ第三十二ニ準シテ施行スヘシ但シ右翼下士ハ半右向ヲナシ後列兵ハ約一步右前ニ閉テ動作終レハ舊位ニ復ス

裝填ハ各自熟達ノ度ニ應シ成ル可ク迅速ニ施行スルヲ要ス下士ハ要スル時ノミ之ヲ行フ

射擊

第七十一

小隊面ハ目標ニ對スル方向ト成ル可ク直角ナル

ヲ良トス故ニ要スルトキハ豫メ方向變換ヲ行ハシムヘシ

射撃ヲ行フニハ豫メ方向、目標、射撃姿勢及照尺（要スレハ照

準點）ヲ令スルモノトス

下士ハ立射ニ在リテハ立銃ヲ爲シ（右翼下士ハ半右向ヲ爲ス）膝

射伏射ニ在リテハ兵卒ト同一ノ姿勢ヲ取り其銃ノ保持法ハ第三

十七ニ準ス

伏射ハ一列ニテ行フモノトス

第七十一 一「立（膝）射の格へ」ノ豫令ニテ後列兵ハ裝填ニ於

ケル如ク距離ヲ閉チ「銃」ノ勅令ニテ小隊ハ銃ヲ構フ

若シ押伍列火線前ニ在ルトキハ第六十六ニ準シ後列ノ後方ニ移
ル

第七十二 射撃ヲ分チテ一齊射撃及各個射撃トス各個射撃

ハ通常「並」ニ時トシテ「急」ニ之ヲ行フ

一齊射撃ヲ爲サシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

前面ノ密集部隊

立（膝）射の格へ 銃

千二百米突（千百、千二百米突）

狙^子へ
撃^ヲ

「狙へ」ノ號令ニテ照準シ「撃」ノ號令ニテ發射シ銃ヲ構へ次發ノ準備ヲ爲ス

續テ射撃セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

狙へ
撃

各個射撃ヲ爲サシムルニハ例へハ左ノ號令ヲ下ス

森ノ右ニ現ハレタル砲兵

立(綠)射の標へ 銃

八百米突

並ニ撃カ、レ(急キ撃カ、レ)

「並ニ撃カ、レ」ノ號令ニテ兵卒ハ第四十四ノ要領ニ從テ射撃ヲ行フ

「急キ撃カ、レ」ノ號令ニテ兵卒ハ射撃速度ノ迅速ニ由リテ効果ヲ求ムル爲照準ノ正確ヲ害セサル限り最大ナル速度ヲ以テ射撃ヲ行フ

第七十四

射撃ヲ止ムルニハ左ノ號令ヲ下ス

撃方止メ

銃ヲ安全装置ニシ照尺ヲ舊位ニ復シ立銃ヲ爲シ右翼下士及後列兵ハ舊位ニ復ス

第七十五

射撃ヲ中止スルニハ左ノ號令ヲ下ス

撃方待テ

各兵卒ハ銃ヲ構ヘ次發ノ準備ヲ爲ス

第七十六

混用照尺ハ通常第一列兵ハ低キ照尺第二列兵ハ高キ照尺ヲ取ルモノトス散開セシトキモ亦之ニ準ス

直行進及行進間ノ右轉回

第七十七

行進ハ常ニ右方ニ嚮導ヲ取ル若シ左方ニ取ルトキハ特ニ之ヲ示スモノトス

小隊長ハ通常行進目標ヲ右(左)翼下士ニ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

オヘ進メ

或ハ

オヘ進メ

嚮導左

小隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ニ準ヒテ横隊面ト直角ニ行進シ嚮導ハ列兵ニ關スルコトナク正シク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ目

標ニ向ヒテ行進ス

各兵卒ハ嚮導ノ方ニ整頓スル爲頭ヲ轉スルコトナク常ニ隣兵ニ注意スルヲ要ス然レトモ一般ニ整頓ハ歩長及速度ノ齊一ト間隔ノ保存トニ依リテ保持シ得ルモノトス

第七十八

行進中嚮導ヲ他翼ニ取ルヲ要スルトキハ「嚮導左(右)」ノ號令ヲ下ス

第七十九

直行進間右轉回ヲ爲サシムルニハ第二十及第六十五ニ準シテ施行ス

第八十

行進間兵卒ノ遵守スヘキ要件左ノ如シ

嚮導何レノ方ニ在ルモ常ニ頭ヲ正シク保ツヘキコト

整頓異ヨリ押シ來ルトキハ之ニ從ヒ反對ノ方ヨリ押シ來ルト

キハ之ヲ支フルコト

整頓線ヨリ進ミ或ハ後レ又ハ間隔ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ回

復スヘキコト

若シ歩ノ違ヒタルトキハ踏替(後ナル足ヲ前ナル足ニ引着ケ

前ナル足ヨリ行進ス駈歩ニ在リテハ片足ニテ二步行進ス)ヲ

爲シ速ニ嚮導ノ方ナル隣兵ノ歩ニ準フヘキコト

第八十一

小隊ニ於ケル善良ナル直行進ハ密集部隊諸運動

ノ基礎トス

斜行進

第八十一 直行進間斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜めに右(左)へ進メ

斜行進ノ方向ハ通常横隊面ト四十五度ノ角ヲ爲スモノトス

斜行進ニ在リテ各兵卒ノ位置正シキトキハ其肩互ニ平行シ右斜行進ニ在リテハ各兵卒ノ右肩其右隣兵ノ左肩ノ後方ニ在リ左斜行進ニ在リテハ之ニ反スルモノトス

各兵ハ常ニ斜行スル方ニ整頓スヘキモノトス

第八十二 再ヒ直行進ニ復スルニハ左ノ號令ヲ下ス

おへ進メ

兵卒ハ斜行進ヲ爲スト同法ヲ以テ直行進ニ復ス

二列ヨリ一列ニ及一列ヨリ二列ニ移ル

第八十四 停止或ハ行進シアルトキ二列ヨリ一列ニ移ラシムルニハ基準伍ヲ示シテ左ノ號令ヲ下ス

一列に進メ

基準伍ハ動かサルカ或ハ續テ行進ス其他ノ諸伍ハ左右ニ所要ノ

間隔ヲ取リ（停止間ニ在リテハ其儘左右向ヲ爲シ行進間ニ在リテハ步度ヲ伸ハシ斜行ス）後列兵ハ前列兵ノ左ニ出テ各自ニ基準ノ方ニ整頓シ或ハ之ニ準ヒテ行進ス

第八十五 二列ニ復スルニハ基準兵ヲ示シテ左ノ號令ヲ下

ス

二列に 進メ

一列ニ移ルト反對ノ順序ヲ以テ二列ニ復ス

突 擊

第八十六 突擊ヲ爲サシムルニハ第三十九ニ從フヘシ

停 止

第八十七 小隊ヲ停止スルニハ左ノ號令ヲ下ス

小隊 止レ

小隊ハ停止シ第六十四ニ準シテ兵卒各自ニ嚮導ノ方ニ整頓シ頭ヲ前面ニス

第八十八 行進間右轉回ヲ爲スト同時ニ停止セシムルニハ

第二十及第六十五ニ準シテ施行シ兵卒ハ各自ニ嚮導ノ方ニ整頓ス

方向變換

第八十九

行方向變換ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)に^{ムカ}方向を換へ 進メ

停止間ニ在リテハ右(左)翼下士ハ右(左)向ヲ爲シ各兵卒ハ半右(左)向ヲ爲シ捷路ヲ經テ逐次新線ニ到リテ停止シ其右(左)隣兵ニ整頓ス

行進間ニ在リテハ右(左)翼下士ハ右(左)向ヲ爲シ續テ行進シ各兵卒ハ上ノ方法ニ準シ新線ニ就キ右(左)隣兵ニ準ヒテ行進ス小角度ノ方向變換ヲ行フニハ方向ヲ變換スヘキ方ニ在ル翼下士ニ豫メ新目標(方向)ヲ示スヘシ

側面行進

第九十

側面行進ヲ爲サシムルニハ先ツ側面ニ向カシム之カ爲左ノ號令ヲ下ス

右(左)向け 右(左)

小隊ハ右(左)向ヲ爲シ次ニ偶數兵(奇數兵)ハ奇數兵(偶數兵)ノ右(左)ニ出テ四兵卒相並フ次ニ左ノ號令ヲ下ス

右ハ 進メ

小隊ハ行進ヲ起シ各兵卒ハ常ニ左(右)方ニ整頓シ嚮導ノ後ロニ在ル兵卒ハ正シク其跡ニ就キテ行進シ其他ノ兵卒ハ列中ニ在リ

テ互ニ重ナリ其直前ニ在ル兵卒ノ頭ヲ以テ其前方兵卒ノ頭ヲ掩
フ如ク行進ス

側面行進ニ於テ先頭四兵卒ノ整頓不正ナルトキハ其害各列ノ整
頓ニ及フモノトス

伍々方向變換

第九十一

側面向ニテ停止或ハ行進シアルトキ伍々方向變
換ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

伍々^{ウキウキ}左(右)へ 進メ

先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ常ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツツ(行進

翼ニ在ル兵卒ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ旋回軸ニ在ル兵卒ハ最
初ノ數步ヲ縮メ)左(右)ニ方向ヲ換ヘ各伍ハ其先行伍ト同所ニ
到リ同法ヲ以テ方向ヲ變換ス

小角度ノ伍々方向變換ニハ豫メ新目標(方向)ヲ示スヘシ

側面行進ヨリ停止及正面向

第九十二

側面行進ニアル小隊ヲ停止シ正面ニ向カシムル
ニハ左ノ號令ヲ下ス

小隊 止レ

左(右)向け 左(右)

「止レ」ノ號令ニテ小隊ハ停止シ動クコトナシ「左(右)」ノ號令ニテ左(右)方ニ向キ伍ヲ解キ各自ニ嚮導ノ方ニ整頓ス
 小隊ヲ停止シ直ニ正面ニ向カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 左(右)向け 止レ

行進間右(左)向

第九十二 直行進又ハ側面行進間右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向け方へ 進メ

各伍ハ右(左)向ヲ爲シ重複或ハ分解ス

駈歩

第九十四 兵卒直行進、斜行進、側面行進及行進間ノ右轉回並ニ右(左)向ニ熟スルトキハ駈歩ヲ以テ此運動ヲ行ハシムヘシ此規則ハ中隊ニモ亦適用ス

横隊ヨリ側面縱隊ニ及側面縱隊ヨ

リ横隊ニ移ル

第九十五 横隊ニテ行進シアル小隊ヲ同方向ニ側面縱隊ニ

移スニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向け方へ 進メ

第九十及第九十一ニ準シテ施行ス

第九十六 停止或ハ行進セル側面縱隊ヲ同方向ニ横隊ニ移

スニハ左 號令ヲ下ス

左(右)へ並ひ 進メ

先頭ニ在ル下士ハ動カサルカ或ハ續テ行進シ各兵卒ハ伍ヲ解キ
捷路ヲ經テ逐次ニ新線ニ就キ右(左)隣兵ニ整頓スルカ或ハ之ニ
準ヒテ行進ス

膝姿及伏姿

第九十七 小隊ノ膝姿(伏姿)ハ第三十七ニ從ヒテ施行ス但

シ横隊ニ在ルトキ伏姿ヲ爲スニハ前列兵ハ更ニ二歩前進スルモ
ノトス

途 步

第九十八 速步行進間途步ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下

途 步

野外要務令ノ規定ニ從フ(側面縱隊ニ於ケル各兵卒ノ間隔ハ第
六十一ニ從フ)
途步ハ行軍ノ外時トシテ不齊地等ノ運動ニ於テ行進ヲ容易ナラ

シムル爲用フルヲ得

途步行進間遠歩ヲ爲サシムルニハ「遠歩進メ」ノ號令ヲ下ス

解散及集合

第九十九

又銃ヲ爲シタル後或ハ銃ヲ携ヘタル儘解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解^ワれ進^メ

又銃ヲ爲シテ解散スルトキ兵卒ハ又銃ニ觸ルルヲ禁ス

第百 小隊ヲ集合スルニハ左ノ號令ヲ下ス

集^レ

各兵卒ハ直ニ又銃ノ所ニ集リ靜肅ニ己ノ位置ニ就ク

銃ヲ携ヘタルトキハ速ニ小隊長ノ許ニ集リ之ニ面シテ番號ノ順序ニ從ヒ二列トナリ各自右方ニ整頓ス

散開教練

第百一

散開教練モ亦各個教練ヨリ直ニ小隊教練ニ移ルコトナク先ツ若干ノ兵卒或ハ分隊ヲ以テ演習スルヲ要ス此教練ニ方リ各散兵ハ小隊ノ一部トシテ其動作ヲ習得シ管ニ其長ノ指揮ニ從フノミナラス尙ホ停止及行進間ニ於テ其隣兵ヲ顧慮スルヲ要ス

第百二一

野外ニ於テ運動スル各散兵ヲシテ地物ヲ利用セシムルハ指揮官ノ殊ニ注意スヘキ所タリ然レトモ何等ノ場合ニ於テモ一二兵卒ノ遮蔽ヲ顧慮シテ全隊一致ノ運動ヲ妨クルコトナキヲ要ス

此理由ニ基キ連繫スル散兵ノ運動ハ教練ノ最モ必要ナル事トス散兵線ノ伸張ト稠密トニ隨ヒ其指揮及動作益々困難ナルモノナリ故ニ最初ノ教練ハ其線ヲ短クシ且ツ疎散ナラシムルヲ要ス

散開

第百二二

散開ハ順序正シク且ツ靜肅ニ諸種ノ隊形ヨリ迅速

ニ諸方向ニ施行シ得ルヲ要ス

散開スルトキ各散兵ノ間隔ハ約二步ヲ定規トス

第百四

横隊ニテ停止或ハ行進シアル小隊ヲ前方ニ散開スルニハ基準伍ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

散レ

基準伍ハ眞直ニ前進シ其他ノ諸伍ハ駈歩ヲ以テ左右ニ斜行進ヲ爲シ後列兵ハ其前列兵ノ左側ニ出テ續テ前進ス

其位置ニ於テ散開スルニハ基準伍ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス其場ニ散レ

基準伍ハ動かサルカ或ハ停止シ其他ノ諸伍ハ側面向ヲ爲シ駆歩ヲ以テ間隔ヲ得ルマテ行進シ後列兵ハ其前列兵ノ左側ニ出ツ

第百五

側面縦隊ニテ停止或ハ行進シアル小隊ヲ前方ニ散開スルニハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)へ散レ

嚮導ノ直後ニ在ル兵卒ハ行進ヲ起スカ或ハ續テ行進シ各伍ハ分解シ駆歩ヲ以テ左(右)ニ斜行進ヲ爲シ捷路ヲ經テ散開シツツ新線ニ就ク

先頭ノ位置ニ於テ散開スルニハ左ノ號令ヲ下ス

其場ニ左(右)へ散レ

第百六

退却スル小隊ヲ散開スルニハ先ツ敵方ニ轉回セシメ次ニ散開ノ號令ヲ下ス

第百七

定規外ノ間隔ニ散開スルニハ「散レ」ノ前ニ「何歩ニ」ノ號令ヲ加フヘシ

斜方向ニ散開スルニハ號令ノ前ニ目標(方向)ヲ示スヘシ

散兵線ノ運動

第百八

散兵線ノ行進ハ通常速歩ノ速度ヲ用フルモノトス
前進或ハ退却セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前(後ト)へ

斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜メニ右(左)へ

行進間ハ整頓及間隔ヲ墨守スルヲ要セス運動ヲ起スニ方リ射擊中ナレハ各散兵ハ銃ヲ安全裝置ニシ表尺ヲ倒シ其長ヲ基準トシテ行進ス小隊長及分隊長ハ其部下ノ中央前ニ在リテ誘導ス急速ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駈歩(疾驅)

前(斜メニ右)(斜メニ左)へ

「駈歩」或ハ「疾驅」ノ號令ニテ散兵ハ銃ヲ安全裝置ニシ表尺ヲ倒シ前進ノ準備ヲナス

「前へ」或ハ「斜メニ右(左)へ」ノ號令ニテ散兵ハ直ニ駈歩又ハ疾驅シテ躍進ス

行進間ニ在リテ急速ナル步度ニ移ラシムルニハ單ニ「駈歩」或ハ「疾驅」ノ號令ヲ下ス

行進スル散兵線ヲ停止スルニハ左ノ號令ヲ下ス
止レ

各散兵ハ停止シ第四十二ニ準シ常ニ敵方ニ面シテ射擊ノ構ヲ爲

シ(銃ニ裝填シアラサルモノハ裝填ス)小隊長及分隊長ハ通常其部下ノ後方適當ノ所ニ位置ス

散兵線ヲ區分シテ躍進セシメントスルトキハ豫メ其區分ヲ指示スヘシ

一躍進ノ距離ハ通常百米突チ超ユルコトナシ

演習ニ於テ散兵ニ伏臥ノ姿勢ヲ取ラシムルヲ要セサルトキハ豫メ停止ニ於ケル姿勢ヲ告知スヘシ

第百九

停止或ハ行進セル散兵線ノ方向ヲ變換スルニハ新

目標(方向)ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ニ方向ヲ換ヘ

軸翼分隊長ハ若干ノ兵卒ヲ新方向ニ停止セシメ各散兵ハ駈歩ニテ新線ニ到リ停止ス

散兵線ノ射擊

第百十

散兵線ノ射擊ハ停止シテ行フモノトス

第百十一

射擊ノ効力ハ正シク銃ヲ使用スルノ外、距離、目

標ノ大小、疎密、厚薄、目標所在ノ地形及氣象ニ關スルモノトス
一目標ニ對スル射擊ノ効力假令同一ナルトキニ於テモ之ニ關スル時間愈々短縮シ且ツ其景況漸次ニ猛烈ナルニ從ヒ益々敵ヲ震

駭セシムルモノトス

此目的ヲ達スルモノハ良好ナル射撃指揮ト射撃軍紀トニシテ速度ヲ過度ニ獎勵スル如キハ寧ロ戰鬥力ヲ濫費スルモノトス

第一百十二 射撃ノ指揮ヲ勉メテ長ク確實ニ持續シ銃器ノ眞

價ヲ發揮スル爲指揮官ハ部下ヲ手裡ニ掌握スルヲ要ス

目標ヲ指示スルニ方リ比隣部隊ノ目標トノ間ニ空隙ヲ存セサルヲ可トス蓋シ對戰スル敵ノ一部ト雖我射撃ノ制壓ヲ免レシメサルコト最モ緊要ナレハナリ

屢々目標ヲ變換スルトギハ射撃ヲ錯亂ス故ニ宜シク之ヲ避クヘ

シ

距離ヲ確實ニ判定スヘキ時間又ハ機會ナキトキハ其近傍ニ於テ射撃スル砲兵或ハ歩兵アラハ之ニ諮問シ又ハ地圖ヲ案シ若クハ目測ヲ以テ距離ヲ測定スルヲ要ス

第一百十二 散兵線ノ射撃ハ各個射撃ヲ用フルヲ常トス蓋シ

最大ノ効力ヲ得ルハ此射撃ニ若クモノナシ是レ各兵卒ハ精密ニ照準シ好機會ヲ待チテ發射スルコトヲ得レハナリ

並射撃ノ速度ハ目標ノ景況、彈藥ノ現數、氣象及射手ノ精神ト體力ノ状態トニ由リ自ラ緩急ヲ生スト雖指揮官不適當ト認ムル

トキハ之ヲ規正シ又ハ狀況ニ應シ特ニ其速度ヲ緩ニシ及之ヲ復舊セシムル爲「徐^{ソウ}ニ」或ハ「活^{カツ}潑ニ」ノ注意ヲ下スヘシ
 急射撃ハ如何ナル状態ニ在リテモ効力ヲ期シ得ヘキ至近ノ距離ニ於テ固定照尺ヲ用ヒテ施行スルモノニシテ其時機左ノ如シ但シ稀ニ中距離以内ニ於テモ特ニ有利ナル目標ニ對シ短時間ニ偉大ナル効力ヲ收メ得ヘキ場合ニ限り少時間此射撃ヲ應用スルコトアリ

突撃前ニ於ケル最後ノ射撃又ハ敵ノ突撃ヲ擊攘セントスルトキ

堡壘、村落、森林等ノ戰鬥ニ於テ俄然ト衝突セシトキ

敵ヲ驅逐シ直ニ追撃射撃ヲ行フトキ

一齊射撃ハ軍隊ヲ掌握シ時トシテハ彈着點ヲ認識シ照尺ノ選定ヲ容易ナラシムル利アリ然レトモ戰鬥ノ喧噪ナルニ方リテハ密集セル小隊ト雖尙ホ聲音ヲ達セシムルコト難ク散開セル小隊ニ於テハ一層困難ナリトス故ニ一齊射撃ハ有効ナル敵ノ射撃ヲ被ラサル時機ニノミ應用シ得ルニ過キサルモノトス

第一百十四 射撃効力ノ觀測ハ最モ必要ナルモノトス蓋シ絶

エス彈着ヲ注視シ且ツ敵ノ状態ヲ視察スルトキハ之ニ由リテ照

尺及照準點ノ選定ヲ適當ナラシムルヲ得レハナリ
火線ヨリ直接ニ觀測スルコト能ハサルトキハ適宜ノ位置ニ特別
ノ觀測者ヲ配置スルヲ良トス

第一百十五

射擊軍紀トハ射擊指揮ヲ完全ナラシムル爲火戰
中射擊ニ關スル戰鬪動作ト命令トヲ確實ニ實行シ銃ノ使用法ヲ
嚴守スルヲ謂フモノニシテ特ニ要求スヘキ件左ノ如シ

敵火ノ下ニ在リテ沈着堅忍シ命中効力ヲ増大スル爲地形ノ利
用及發射ノ時機ト方法トニ注意シ常ニ其指揮官及敵兵ニ留意
シテ目標消滅スルカ或ハ指揮官ノ小笛若クハ他ノ方法ニヨリ

射擊停止ノ命令アルトキハ速ニ射擊ヲ停止シ得ヘク又假令指
揮官ノ射擊指揮行ハレサル場合ニ於テモ各兵卒ノ思慮ト判斷
トニ基キ依然射擊ノ効力ヲ維持シ得ルコト

故ニ射擊指揮ノ行ハレサル戰況ニ於テ各兵卒ヲシテ適當ニ處置
シ得ル如ク教育スルコトハ特ニ緊要ナリトス

第一百十六

各兵卒ヲシテ其長ノ指揮及隣兵ノ景況ニ應シ散
兵線上ニ於テ射擊ノ爲速ニ最良ノ位置ヲ選定スルニ熟達セシム
ルヲ要ス但シ一地ニ於テ左右ニ移動スルハ敵兵ノ注意ヲ喚起ス
ルヲ以テ成ル可ク之ヲ避クヘシ

何等ノ時ト雖散兵ハ常ニ命セラレタル照尺ヲ最モ精確ニ裝置スルヲ要ス

各個射撃ニ際シ目標ノ幅員ヲ示サレタルトキハ多クハ先ツ正對セル部ニ就キ若クハ與ヘラレタル範圍ニ於テ最モ明瞭ナル部分ニ射撃ヲ指向シ而シテ照準點ハ通常其下際トス

第一百十七

射撃ノ號令ハ第七十三ニ準ス但シ射撃姿勢ヲ示スコトナシ分隊長ハ要スレハ其號令ヲ復令スヘシ

目標ヲ指示スルニハ兵卒ニ誤解ナカラシムルコトヲ勉メ且ツ簡明ナル言詞ヲ用フヘシ

第一百十八

俄ニ射撃ヲ中止スルノ必要ニ際シ他ニ手段ナキトキ始メテ小笛ヲ用フルコトヲ得

集合及併合

第一百十九

散兵ヲ集合(併合)スルニハ刀ヲ舉ケ(併合ニハ隊形ヲ示シタル後)左ノ號令ヲ下ス

集レ(併セ)

散兵ハ駈歩ヲ以テ小隊長ノ許ニ集リ番號ノ順序ヲ以テ横隊(番號ノ順序ニ拘ラス示サレタル隊形)トナリ小隊長停止シアレハ停止シ行進シアレハ續テ行進ス

第三章 中隊教練

總則

第二百一十 中隊教練ノ主旨ハ中隊ヲシテ其長ノ號令及命令ニ從ヒ整正確實ニ規定ノ運動ヲ實行シ得シムルニアリ此ノ如キ教練ノ善良ナル結果ハ如何ナル場合ニ於テモ直ニ中隊長ノ命令ニ應シ制式ノ適當ナル應用ニ依リテ其意圖ニ合スル如ク運動シ得ルモノトス

第二百一十一 中隊長ハ教練間適當ト認ムル所ニ占位スルヲ要ス

小隊長ハ要スレハ其小隊ノ爲スヘキ動作ヲ小聲ニテ豫告スルモ妨ケナシ
喇叭手ハ第三小隊ト共ニ運動シ常ニ定距離ヲ保持ス但シ散開シタルトキハ通常各小隊ニ分屬ス

密集教練

中隊ノ編成

第二百一十二 中隊ハ兵卒ヲ二列ニ編成シ之ヲ分チテ三小隊トス伍數三等分スヘカラサルトキハ第三小隊ニ一伍ヲ減シ次に第一小隊ニ一伍ヲ減ス但シ上等兵ハ概テ平等ニ各小隊ニ配賦

ス

將校下士ヲ各小隊ニ配賦スルハ中隊長ノ任トス若シ將校ニ缺員
アルトキハ特務曹長若クハ故參下士ヲ以テ之ニ代フルモノトス

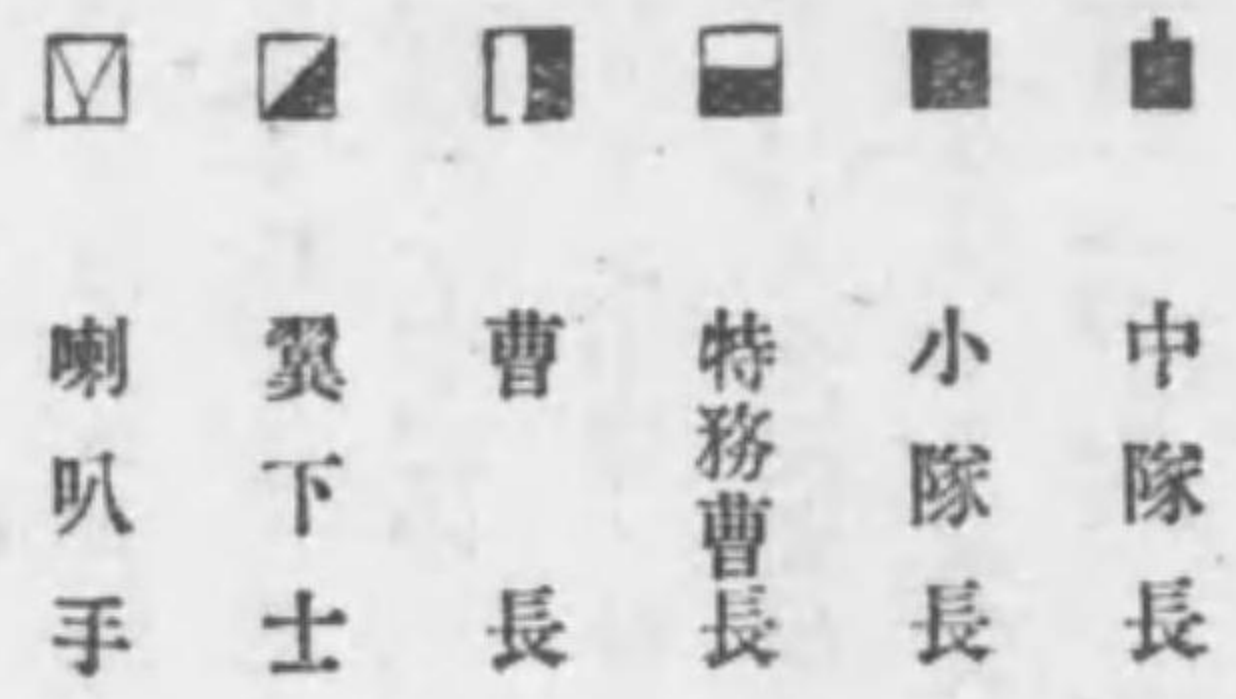
横隊（第一圖）

第二百二十三 小隊ハ中隊中ニ於テ右翼ヨリ番號ヲ附ス

横隊ハ整列及運動ニ用フルモノトス

横隊ノ運動

第二百二十四 直行進、行進間ノ右轉回及斜行進ハ第七十
七乃至第八十三ニ停止ハ第八十七及第八十八ニ準シテ施行ス押



第一圖 中隊ノ横隊



伍列ヲ後方ニ移スヲ要スルトキハ第六十六ニ準シテ施行ス中間ニ在ル小隊長ハ押伍ヲ通過セシムル爲ニ歩前進シ各押伍及喇叭手ハ其小隊ノ最近翼ヲ通過ス

第一百二十五

方向變換ハ第八十九ニ準シテ施行ス行進間ニ在リテハ中隊ノ軸翼ニ在ル士官(准士官)ハ足蹈ヲ爲シ兵卒ハ駆歩ヲ以テ逐次新線ニ就キテ足蹈ヲ爲シ中隊長ハ方向變換ノ終ラントスルトキ「おへ進メ」ノ號令ヲ下ス

第一百二十六

行進間障碍物ニ遭遇セシ小隊ハ其長ノ號令ヲ以テ障碍ヲ避ケ再ヒ定位ニ復スヘシ

側面縱隊

第一百二十七

側面縱隊ノ行進及之ニ屬スル諸運動ハ第九十乃至第九十三及第九十五第九十六ニ從ヒテ施行ス但シ行進間側面縱隊ヨリ同方向ニ横隊ヲ編成スルニハ第一百二十五ニ準シテ施行ス

側面縱隊ニ在リテ小隊ノ先頭ニ在ル翼下士ハ前列ノ前ニ出テ嚮導トナリ小隊長ハ其外側ニ接シテ位置シ翼准士官ハ右側面向ニ在リテハ後尾ニ左側面向ニ在リテハ先頭伍ト齊頭ニテ押伍列ニ位置ス中隊長ハ先頭小隊長ノ外側二步ノ所ニ位置ス

第二百二十八

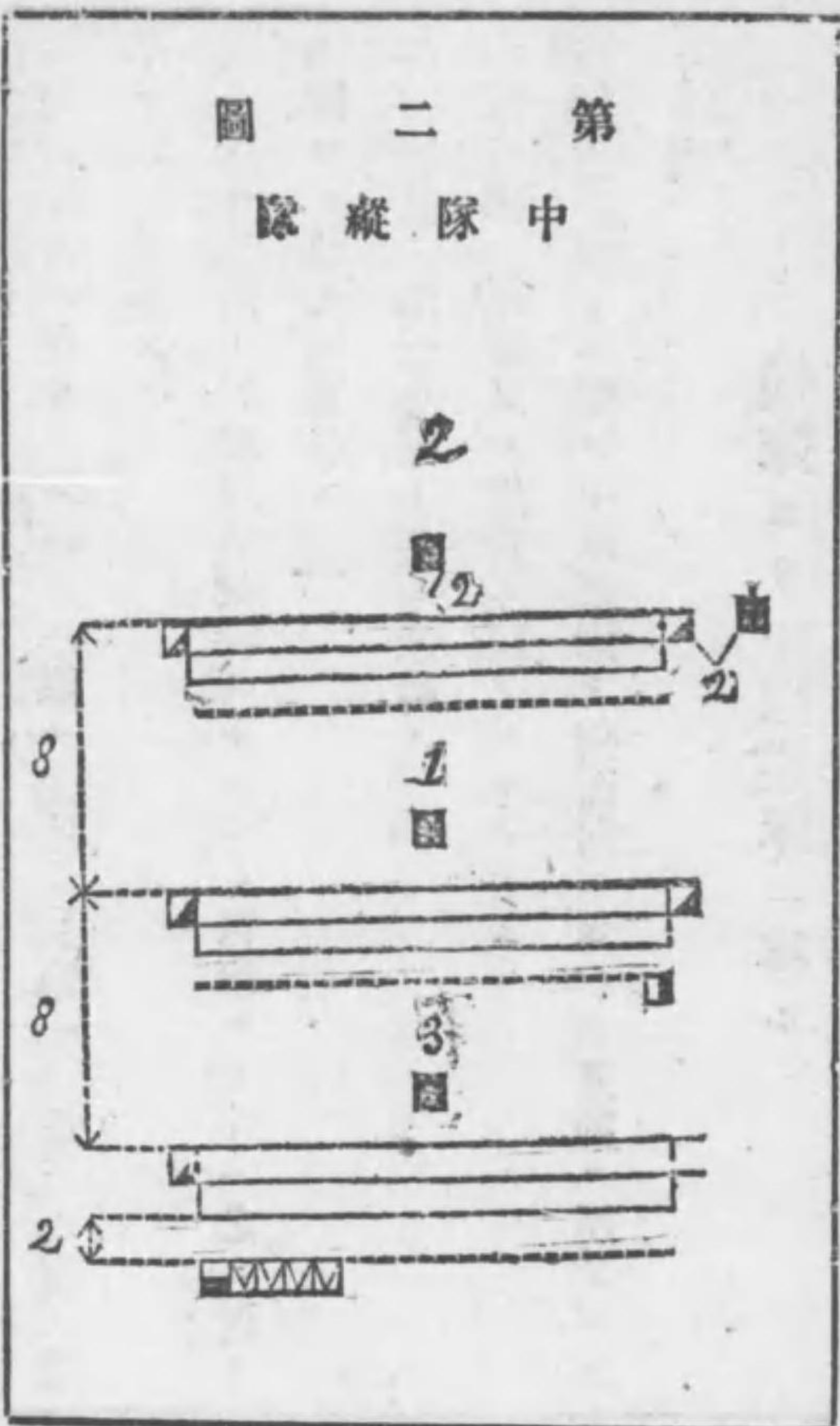
側面縱隊ハ行軍及運動ニ用フルモノトス
 行軍間速歩行進ヲ爲ス部隊ハ其勢ヲ減スル爲「換へ銃」ノ號令
 ヲ下シテ銃ヲ他ノ肩ニ移サシムルヲ得
 行軍路ノ景況ニ從ヒ命令ヲ以テ側面縱隊ヲ三列、二列又ハ一列
 ト爲スヲ得

中隊縱隊(第二圖)

第二百二十九

中隊縱隊ハ三小隊互ニ八歩ノ距離ヲ存シテ
 前後ニ重疊スルヲ定規トス時宜ニ由リ八歩ノ距離ヲ伸縮スルコ
 トヲ得

第 二 圖
中 隊 縱 隊



定規ノ配置ニ在リテハ第二小隊ヲ先頭トシ第一、第三小隊ノ順序ヲ以テ重疊ス

翼小隊ヲ先頭トシ縦隊ヲ編成スルコトヲ得然ルトキハ之ニ近キ小隊ヨリ順次ニ重疊ス

特務曹長ハ第三小隊ト共ニ運動ス

中隊縦隊ハ運動又ハ集合ニ用フルモノトス

地形ト狀況トニ應シ中隊縦隊ヲ側面向ト爲シテ運動ニ用フルコトヲ得

横隊ヨリ中隊縦隊ニ移ル

第二百三十 號令

中隊縦隊 進メ

停止間ニ在リテハ中央小隊ハ動カス小隊長及翼下士ハ定位ニ就キ兩翼小隊ハ兵卒各自左右向ヲ爲シテ伍ヲ重複スルコトナク捷路ヲ經テ縦隊ノ定位(中央小隊ヨリ八步十六步ノ距離ヲ隔ツル如ク)ニ到リ停止正面向ヲ爲シテ右方ニ整頓ス翼下士ハ前方小隊ヨリ距離ヲ取り右翼下士ハ先頭ニ在ル下士ニ重ナリ整頓ヲ正スノ責ニ任ス小隊長ハ速ニ己ノ定位ニ就ク

行進間ニ在リテハ中央小隊ハ行進ヲ續行シ兩翼小隊ノ兵卒ハ足

蹈ヲ爲シ適時各自ニ左右斜行進ヲ爲シ中央小隊ノ後方ニ重疊シ
右方ニ準ヒテ行進ス

第三百二十一 翼小隊ヲ基準トシテ縱隊ヲ編成スルニハ左
ノ號令ヲ下ス

右(左)へ中隊隊 進メ

中隊縱隊ヨリ横隊ニ移ル

第三百二十二 號令

開け 進メ

先頭小隊ハ動かサルカ或ハ行進ヲ續行シ各官ハ定位ニ就キ中央

小隊ハ右斜行進後尾小隊ハ左斜行進ヲ爲シ兵卒各自ニ横隊線ニ
進ミ先頭タリシ小隊ノ方ニ整頓ス

第三百二十三 一翼ニ開進シテ横隊ヲ編成スルニハ左ノ號
令ヲ下ス

右(左)へ開け 進メ

第三百二十四 新方向ニ開進シテ横隊ヲ編成スルニハ豫メ
方向變換ヲ爲シテ後之ヲ行フカ或ハ豫令ノ前ニ新目標(方向)ヲ
指示スヘシ

第二ノ場合ニ在リテハ先頭小隊ハ指示セラレタル方向ヲ取り後

方小隊ハ開進シツツ新方向ヲ取ル

側面縱隊ヨリ中隊縱隊ニ及中隊

縱隊ヨリ側面縱隊ニ移ル

第二百二十五

側面縱隊ヨリ同方向ニ中隊縱隊ニ移スニハ

左ノ號令ヲ下ス

左(右)へ中隊縱隊進メ

先頭小隊ノ嚮導ハ動カサルカ或ハ行進ヲ續行シ各小隊ハ第九十六ニ從テ開進シ後方ニ小隊ハ八歩ノ距離ニ閉縮シツツ開進ス

第二百二十六

側面縱隊ヨリ毎小隊逐次ニ開進シテ某方向

ニ中隊縱隊ヲ編成スルヲ得之カ爲ニハ豫メ先頭小隊ノ停止スヘキ位置ヲ示シテ左ノ號令ヲ下ス

中隊縱隊ニ集レ

各小隊ハ其長ノ號令ニ依リ逐次ニ中隊縱隊ヲ編成ス

第二百二十七

中隊縱隊ヨリ同方向ニ側面縱隊ニ移スニハ

第九十第九十一及第九十五ニ準シテ施行ス後方ニ小隊ハ前方小隊ニ繼續スル如ク行進ス

中隊縱隊ニ在ルトキ中隊長ハ各小隊長ニ命令シ某方向ニ毎小隊逐次ニ側面縱隊ニ移ラシムルヲ得

中隊縱隊ノ運動

第三百二十八

中隊縱隊ノ直行進、行進間ノ右轉回及斜行

進ハ第七十七乃至第八十三ニ停止ハ第八十七及第八十八ニ準シテ施行ス後方ニ小隊ノ嚮導ハ其前方小隊ノ嚮導ノ足跡ヲ蹈ミ常ニ八歩ノ距離ヲ保持スルノ責ニ任ス

押伍列ヲ後方ニ移スヲ要スルトキハ第六十六ニ準シテ施行ス此時小隊長ハ其小隊ノ右翼ヲ廻ハリ中央前ニ出ツルモノトス

第三百二十九

方向變換ヲ行フニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)に方向を換へ進メ

停止間ニ在リテハ先頭小隊ハ第八十九ニ從ヒテ方向變換ヲ行ヒ其他ノ小隊ハ兵卒各自ニ己ノ占ムヘキ位置ニ到リ右(左)方ニ整頓ス

行進間ニ在リテハ先頭小隊ハ第八十九ニ從ヒテ方向變換ヲ行ヒ後方小隊ハ先頭小隊ト同所ニ到リ號令ナクシテ逐次ニ方向ヲ變換ス

小角度ノ方向變換ニハ豫メ新目標(方向)ヲ示スヘシ

第三百四十

中隊縱隊ノ側面行進ヲ行フニハ第九十二ニ準シテ

施行シ前面ノ方ニ在リシ小隊ハ基準トナリ其嚮導ハ目標ニ向ヒ

テ行進シ其他ノ嚮導ハ之ニ整頓シ正面向ニ於ケルトキノ定距離ヲ保持スルノ責ニ任ス要スレハ基準小隊ヲ變更スルヲ得其他ハ
第二百二十七ニ準ス

第四百四十一

側面向ニ在ル中隊縱隊ノ方向變換ヲ行フニ

ハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)ニ方向を換ヘ 進メ

行進間ニ在リテハ旋廻軸ニ在ル小隊ハ伍々左(右)ニ方向ヲ變換シテ新方向ニ進ミ他ノ小隊ハ跣歩ニテ逐次其齊頭ニ到リ之ニ準ヒテ行進ス

停止間ニ在リテハ旋廻軸ニ在ル小隊ハ其深サタケ新方向ニ進ミテ停止シ他ノ小隊ハ逐次其齊頭ニ到リ左(右)方ニ整頓ス
小角度ノ方向變換ニハ豫メ新目標(方向)ヲ示スヘシ

第四百四十一

中隊縱隊ノ直行進及側面行進間右(左)向ヲ爲サシムルニハ第九十三ニ準シテ施行ス

整頓

第四百四十二

中隊ヲ整頓線ニ就カシムルニハ第六十三ニ準シテ施行ス但シ橫隊ニ在リテハ各小隊長及翼准士官前進シ中隊縱隊ニ在リテハ先頭小隊ノ翼下士前進ス

中隊ノ整頓ヲ正スニハ第六十四ニ準シテ施行ス

横隊ニ在リテハ各小隊長ノ先ツ其小隊ヲ整頓セシメ次ニ他小隊中己ニ接近セル伍ヲ正ス中隊縦隊ニ在リテハ整頓翼ノ下士ハ正シク重疊シ後方小隊ハ前方ヨリ距離ヲ取リテ整頓ス

銃ノ操法

第四百十四 銃ノ操法ハ第六十七ニ準シテ施行ス

射擊

第四百十五 中隊ノ射擊ハ通常小隊毎ニ行ハシムルモノ

トス但シ横隊ニ在リテハ中隊長ノ號令ニ由リ第七十一乃至第七

十六ニ準シテ施行スルコトヲ得

銃劍突擊

第四百十六 密集シアル中隊銃劍突擊ヲ爲スニハ第八十

六ニ從ヒ突擊ニ移リ喇叭手ハ侵襲ノ譜ヲ連奏ス適當ノ距離ニ達スレハ左ノ號令ヲ下ス

突込メ

各人ハ呐喊シテ敵ニ向ヒテ突進シ喇叭手ハ間斷ナク吹奏ス演習ニ在リテハ「止レ」ノ號令アルマテ呐喊突進ヲ繼續ス

敵ヲ擊退スルヤ最前線ニ在ル各小隊ハ射擊ノ準備ヲ爲シ成ル可

ク速ニ號令ヲ以テ追撃射撃ヲ開始スヘシ中隊縱隊ニテ突撃セルトキ後方ノ小隊ハ地形ノ許ス限り開進シテ追撃射撃ニ加ハルヲ要ス

散兵線ノ突撃モ亦此要領ニ從フ

散開教練

散開及散兵線ノ運動

第四百四十七

散開及散兵線ノ運動ハ第三百三乃至第三百九ニ

從テ施行ス

散開ハ諸種ノ隊形ヨリ行フモノトス

散開ノ號令ニテ別命ナキトキハ中隊縱隊及側面縱隊ニ在リテハ先頭ニ在ル一小隊散開ス其他ノ隊形ニ在リテハ豫メ散開スヘキ小隊ヲ指示ス

中隊ノ殘餘ハ援隊トナリ散兵線ヨリ必要ナル距離ヲ得ルマテ停止ス特務曹長、曹長及喇叭手一名ハ中隊長ニ隨從ス

射撃

第四百四十八

中隊ノ射撃指揮ハ第一百十乃至第一百十八ニ準

シテ中隊長之ヲ統轄シ中隊長ハ目標、射撃開始ノ時機及要スレハ其距離ヲ小隊長ニ命令ス而シテ散兵ハ常ニ小隊長ノ號令ニ依

リテ射撃ス

散兵線ノ増加

第四百十九

散兵線ノ増加ハ中隊長ノ命令ヲ以テ散兵線ヲ延伸シ或ハ伍間ニ増加ス

小隊ハ直ニ小隊長ノ號令ヲ以テ散開シ延伸増加ニ在リテハ散兵線ノ翼ヨリ約八歩ノ間隔ヲ存スル如ク伍間増加ニ在リテハ散兵線内ノ間隔ニ入ル如ク其位置ニ到ル伍間増加ニ在リテハ各小隊ノ混淆ヲ避クルヲ得ス故ニ中隊ハ速ニ新編成ヲ爲スコトニ慣熟スルヲ要ス即チ各小隊長ハ部下ヲ區分シ各分隊長モ亦其部下ヲ

區分スヘシ

前進スル増加兵敵ノ射撃ヲ被ルトキハ駈歩ヲ以テ躍進スヘシ

援隊

第四百五十

援隊ノ用途ハ散兵線ヲ擴張シ或ハ之ヲ援助シ又ハ敵襲ノ虞アル側面ヲ掩護スルニ在リ故ニ援隊ノ位置ハ其用途ヲ顧慮スルヲ要ス

第四百五十一

援隊ト散兵線トノ距離ハ狀況ニ由リ定マルモノニシテ一定ノ標準ヲ設クルヲ得ス其主トスル所ハ時機ヲ失セス散兵線ヲ援助シ得ルニ在リ

第五百五十二

援隊ハ横隊若クハ縦隊ニ編成シ又ハ梯隊ニ
 區分シテ散兵線ノ運動ニ從フ而シテ敵火ノ効力ヲ滅殺スル爲停
 止ニハ膝姿或ハ伏姿ヲ取り行進ニハ要スレハ駈歩ヲ用ヒ又一時
 散開隊形ヲ取ラシムルヲ得然レトモ敵ノ有効射撃下ニ在リテハ
 成ル可ク隊形ノ變換ヲ避クルヲ要ス
 二小隊相合スルトキハ故參ノ小隊長之ヲ指揮ス

集合及併合

第五百五十三

中隊長ノ下ス「集レ」ノ號令ニテ各小隊ハ中
 隊縦隊ニ集合スヘキモノトス中隊長ハ速ニ基準小隊ヲ示シ各小

隊ハ到着スルニ從ヒ逐次其後方ニ集合ス

併合ハ第百十九ニ準シテ施行ス

第四章 大隊教練

總則

第五百五十四

大隊教練ノ主旨ハ大隊ヲシテ大隊長ノ號令
 若クル命令ニ從ヒテ整正確實ニ戦闘ノ要求ニ基キタル單一ナル
 諸制式ヲ實行シ得シムルニアリ

第五百五十五

大隊長ハ其部隊ヲ指揮スル爲號令若クハ命
 令ヲ用ヒ各中隊長之ニ適スル號令又ハ命令ヲ下ス但シ密集隊形

ニ於テ各中隊同時ニ同一ノ動作ヲ爲ストキニ限リ大隊長ノ一號令ニ依ル

大隊ノ密集隊形

第百五十六 大隊ノ密集隊形ハ左ノ如シ

大隊縱隊 (第三圖)

縱隊橫隊 (第四圖)

圖ニ示シタルモノハ定規ノ配置ナリ中隊ハ順序ニ拘ラス配置スルヲ得

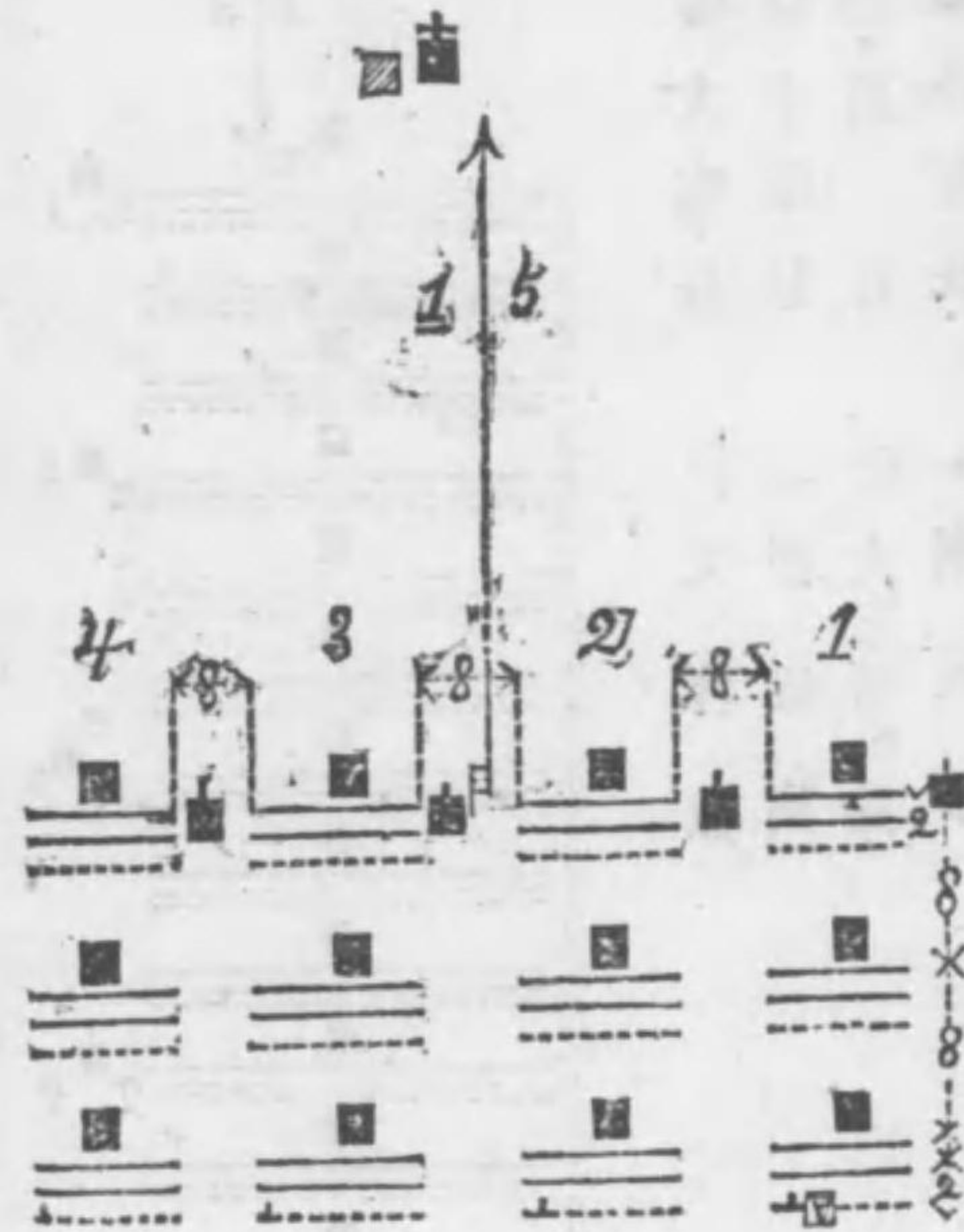
大隊縱隊ハ集合及運動ニ用フ

第三圖 大隊縱隊



- 大隊長
- 中隊長
- 副官
- 小隊長
- 大隊喇叭長
- 一 大隊旗
- 一 押伍列
- 一 喇叭手

第四圖
縱隊 橫隊



縱隊橫隊ハ地形又ハ狀況ニ由リ縱長ヨリモ正面ノ廣キヲ要スル
トキノミ集合及運動ニ用フ又別命アラサレハ戦闘後ノ集合隊形
ニ用フ

第一百五十七

大隊長及副官ノ位置ハ第三圖及第四圖ニ示

スカ如シ然レトモ大隊長ハ狀況ニ應シ位置ヲ選フヘシ副官ハ常
ニ大隊長ニ隨從ス

喇叭長ハ密集隊形ニ在リテハ第一ノ中隊ト共ニ運動シ戦闘間ハ
大隊長ニ屬ス

第一百五十八

大隊旗ハ大隊長ノ選抜セル下士ヲシテ之ヲ

保持セシメ大隊展開セハ大隊長ノ指示セル中隊ニ到リ戦闘間ハ大隊長ノ許ニ到ル

整頓

第百五十九

大隊ノ整頓ハ第百四十三ニ準シテ施行ス

整頓翼ノ下士ハ正シク重疊シ後方小隊ハ前方ヨリ距離ヲ取リテ小隊毎ニ整頓ス但シ縦隊横隊ニ在リテハ先頭列ノ小隊ハ正シク一線上ニ位置スルモノトス而シテ各中隊ノ整頓翼ヲ旗ノ方ニ取ラシムル爲「中へ準へ」ノ號令ヲ下ス

大隊ヲ整頓線ニ就カシムルトキ「嚮導(何)歩前へ」ノ號令ニテ

大隊縦隊ニ在リテハ先頭小隊ノ翼下士、縦隊横隊ニ在リテハ旗及先頭列各小隊ノ翼下士前進スルモノトス

一ノ隊形ヨリ他ノ隊形ニ移ル

第百六十

一ノ隊形ヨリ他ノ隊形ニ移ルニハ各中隊ハ順序

正シク捷路ヲ取り運動スルモノトス

第百六十一

大隊縦隊ヨリ縦隊横隊ニ移ルニハ先頭中隊

ハ動かサルカ或ハ行進ヲ續行シ其他ノ中隊ハ其側方ニ併列ス大隊長ハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)へ縦隊横隊

或ハ

左(右)へ縦隊横隊第何中隊右(左)へ

第百六十二

縦隊横隊ヨリ大隊縦隊ニ移ルニハ指示セラ

レタル中隊ハ動かサルカ或ハ行進ヲ續行シ其他ノ中隊ハ第百三十二準シテ重疊シ第三ノ中隊ヲ先頭トスルトキハ左翼中隊ヲ第二ノ中隊トス大隊長ハ左ノ號令ヲ下ス

右へ(左へ)(第何中隊ニ)大隊縦隊

密集隊形ノ運動

第百六十三

直行進、行進間ノ右轉回、斜行進及停止ハ第

百三十八ニ準シテ施行ス縦隊横隊ニ在リテハ旗ノ方ニ整頓シ大隊縦隊ニ在リテハ通常右方ニ整頓ス

部隊ノ側面行進ハ第百四十二ニ準シテ施行ス

第百六十四

方向變換ヲ行フニハ(停止シアル大隊縦隊ニ

在リテハ行進ヲ起サシメタル後)左ノ號令ヲ下ス

右(左)ニ方向ヲ換へ

大隊縦隊ニ在リテハ行進間ニ於テ各中隊逐次ニ方向ヲ變換ス

縦隊横隊ニ在リテハ軸翼中隊ハ停止間或ハ行進間ノ方向ヲ變換ヲ爲シ行進間ニ在リテハ概子中隊ノ深サタケ前進シテ停止シ

其他ノ中隊ハ逐次ニ方向ヲ變換シテ其位置ニ到リ軸翼ニ整頓ス

小角度ノ方向變換ニハ豫メ新目標(方向)ヲ示スヘシ

側面向ニアル大隊縱隊及縱隊橫隊ノ方向變換ハ縱隊帶隊及大隊縱隊方向變換ノ要領ニ準ス

展開

第百六十五

大隊ノ戰鬪展開ハ所要ノ中隊ヲ戰鬪正面ニ就カシメ殘餘ノ中隊ハ大隊長ノ手裡ニ在リテ適當ナル位置ト隊形ヲ取り必要ニ從ヒ逐次戰鬪正面ニ増加スルモノトス

數中隊ヲ同時ニ戰鬪正面ニ就カシムルニハ大隊長ハ命令ヲ以テ基準中隊及其中隊ノ動作並ニ他ノ中隊ノ位置ト中隊間ノ間隔トヲ示シ各中隊ハ捷路ヲ經テ其位置ニ到ル斯ノ如キ展開ハ行進方向ニ於テスルヲ最モ簡便トシ其線上ニ於テスルハ停止間ニ限ルモノトス

戰鬪正面ニ展開シタル各中隊ノ運動ハ共同目標ニ依リテ規定シ若クハ基準中隊ヲ定メ之ニ連繫セシム後方部隊ノ運動ハ適宜ニ大隊長ノ定ムル所ニ由ル

行進方向ヲ偏移セシメントセハ新目標ヲ示スヘシ正面變換ヲ行

ハントスルトキハ新正面ヲ指示シ中隊ハ之ニ由リテ各自ニ方向ヲ變換スヘシ而シテ大隊長ハ各中隊ノ關係ヲ所要ニ從ヒ整理ス

大隊ヲ集合スルニハ行進間ハ行進方向ニ於テシ停止間ハ其線上ニ於テスルヲ通常トシ大隊長ハ基準中隊及取ルヘキ隊形ヲ命令シ各中隊ハ捷路ヲ經テ集合ス

單ニ地形若クハ其他ノ顧慮ニ由リ大隊ノ密集隊形ヲ解クヲ要スルトキノ展開及運動集合モ亦上ノ要領ニ準ス

一定ノ場合ニ於ケル展開ノ形式ヲ規定シ置クヲ禁ス

第五章 聯隊教練

總則

第百六十六 聯隊教練ハ集合隊形ニ於ケル單一ナル運動

及集合隊形若クハ行軍縱隊ヨリ展開シ又ハ之ヲ集合スル動作ヲ行フモノトス

聯隊長ハ命令ヲ以テ其部隊ヲ指揮ス

聯隊ノ集合隊形

第百六十七 集合隊形ハ大隊縱隊ニ在ル各大隊ヲ通常番

號ノ順序ニ一線ニ配置スルモノトス要スレハ各密集隊形ヲ以テ

二線若クハ三線ニ配置スルヲ得二線ニ配置スルニハ一大隊ハ他
 二大隊ノ間隔ノ前方若クハ後方ニ於テ其中央ニ占位スルモノト
 ス併列シタル各大隊ノ先頭列ハ一線上ニ位置スルヲ要ス
 各大隊ノ間隔及距離ハ約二十歩トス

聯隊長ハ聯隊ノ先頭部隊前二十歩ニ聯隊副官ハ其左方後ニ占位
 ス

第百六十八

軍旗ノ位置ハ集合隊形ニ在リテハ第二大隊
 ノ大隊旗ノ位置ニシテ(此大隊ハ大隊旗ヲ用フルコトナシ)聯隊
 展開シタル後ハ聯隊長ノ指示ニ由ル

聯隊長ノ撰拔シタル一等卒五名ヲ以テ軍旗衛兵ヲ編成ス此衛兵
 ハ軍旗ノ傍ニ在リテ其二名ハ旗手ノ左右ニ併列シ他ノ三名ハ其
 後列トナル

集合隊形ノ運動

第百六十九

運動ハ單一ナル行進停止及停止間ニ於ケル
 方向變換ニ限ルモノトス其方法ハ大隊教練ニ準シテ施行シ行進
 ニハ基準大隊ヲ定ムヘシ

大隊ヲ數線ニ配置シタルトキノ方向變換ニ在リテハ第一線ハ方
 向ヲ變換シテ二線若クハ三線ニ要スル深サタケ前進シ第二、第

三線ニ在ル大隊ハ捷路ヲ經テ其位置ヲ占ム

聯隊ノ運動ニ在リテハ大隊毎ニ齊一ヲ保持スルモノトス

展開

第七十 聯隊ノ戦闘展開ハ所要ノ大隊ヲ戦闘正面ニ就カ

シメ殘餘ハ聯隊長ノ手裡ニ存ス此部隊ハ爾後ノ展開ヲ顧慮シ多クハ外翼後ニ位置セシメ且ツ其展開ハ戦闘正面ヲ擴張スルモノトス

聯隊ノ展開ハ大隊ニ示セル要領ニ準シテ施行スルモノトス

展開ノ爲行軍縱隊ヨリ分進スル各大隊ハ適當ナル時機ニ於テ其

縱長ヲ短縮スルヲ要ス

戦闘正面ニ展開シタル各大隊ノ運動ヲ規定スルニハ各大隊ニ各別若クハ共同ノ行進目標ヲ指示シ又ハ基準大隊ヲ定メ之ニ連繫セシム正面變換ハ後方梯隊ノ使用ニ依リテ行フモノトス

聯隊集合スルニハ大隊ニ示セル要領ニ準シテ施行スルモノトス

第六章 旅團教練

總則

第七十一

旅團教練ハ集合隊形若クハ行軍縱隊ヨリ各

種ノ目的ニ應シ戰鬪置配ニ就クコトヲ演練スルモノトス
旅團長ハ命令ヲ以テ其部隊ヲ指揮ス

旅團ノ集合隊形

第七十二 旅團ノ集合隊形ハ通常各聯隊ヲ順序ニ從ヒ
テ横接若クハ重疊ス各聯隊ノ間隔及距離ハ約三十歩トシ旅團長
ハ先頭部隊ノ中央前三十歩ニ旅團副官ハ其兩側後ニ占位ス

展開

第七十三 旅團ノ戰鬪展開ハ各聯隊ニ旅團ノ戰鬪正面
内ニ於テ併列シテ戰鬪シ得ヘキ獨立ノ任務ヲ與フルヲ以テ其基

礎トシ旅團長ハ必要ニ應シ豫備隊ヲ手裡ニ存ス

步兵操典第二部改正草案目次

第二部 戰 闘

緒 言

第一章 一般ノ原則

散開戰闘

戰闘正面及縱長區分

指揮官及兵卒

攻 撃

一	一
一	一
十	十
十三	十三
二十四	二十四
三十一	三十一
四十五	四十五

防禦

六十三丁

攻撃奏功後ノ動作及退却

七十丁

他兵種ニ關スル動作

七十六丁

第二章 部隊戰鬪

七十九丁

中隊戰鬪

八十丁

大隊戰鬪

八十二丁

聯隊戰鬪

八十三丁

旅團戰鬪

八十五丁

第二部 戰鬪

緒言

第七十四

操典ニ規定セル制式ノ單一ナルハ步兵ノ教

練ヲシテ齋一旦ツ周到ナラシムルノ基礎ナリ此制式ハ嚴ニ之ヲ

遵守スルト同時ニ戰鬪ノ要求ニ適スル如ク應用スルニアラサレ

ハ教練ノ本旨ニ悖ルモノトス

第七十五

戰鬪演習ニ在リテハ指揮官ハ常ニ戰鬪ノ目

的ヲ定メ狀況ヲ想定シ演習ノ實施ヲシテ之ニ適應セシムルヲ緊

要トス而シテ演習ハ戰鬪ノ目的、兵員及地形ヲ顧慮シテ施行ス

ルモノニシテ此要件中最モ重要ナルモノハ戦闘ノ目的ナリトス
 演習ノ爲戦闘ノ目的ヲ定ムルニハ成ル可ク單簡ナル戦況ヲ基礎
 トシ殊ニ併立シテ動作スル場合ヲ顧慮スルヲ肝要トス蓋シ獨立
 シテ戦闘スルハ實際稀ニシテ多クノ場合ニ於テハ時期、方向、
 地形等ヲ自由ニ選擇シ得サレハナリ

第七十六

操典ノ制式ハ主トシテ練兵場ニ於テ演練ス

ヘキモノニシテ之カ應用モ亦最初ハ練兵場ニ於テシ十分其基礎
 ヲ成シタル後屢々野外ニ於テ地形ヲ利用シテ演習スルヲ要ス
 練兵場ニ於テスル諸制式ノ應用ハ展開、縦長區分及戦闘ノ實行

ニ關シ一般ニ適用シ得ヘキ戦闘原則ヲ演習スルニ限ルモノトス
 之カ爲ニハ練兵場ノ地形如何ニ留意セサルヲ要ス

野外ニ於テハ各種ノ狀況ヲ想定シ操典ノ原則ヲ演習ニ實施シ以
 テ教練ノ完成ヲ企圖スヘシ但シ何レノ場合ニ於テモ一定不變ノ
 狀況ヲ現出セシムルコトヲ避ケ以テ演習ヲシテ模型ニ陥ラシメ
 サルコトニ注意スルヲ要ス

演習スヘキ地區狹小ニシテ戦闘經過ノ各時期ヲ適當ニ連續セシ
 ムルコト能ハサルトキハ之ヲ各時期毎ニ區分シテ演習スルヲ可
 トス

第七十七

諸種ノ部隊ヲ以テ屢々夜間演習ヲ行ヒ各指揮官ヲシテ夜戰ニ必要ナル諸準備就中適當ニ計畫區處スルコトニ慣レシムルト共ニ軍隊ヲシテ各種ノ地形ニ於テ秩序正シク靜肅ニ豫期スル地點ニ到達シ得ルコトニ習熟セシムルヲ要ス

第七十八

戰鬪演習ニ在リテハ少數ノ兵員及若干ノ標旗ヲ以テ敵線ヲ表シ又ハ此假設敵ヲ増大シテ後方部隊ノ位置及運動ヲモ示シ或ハ少數ノ人員ニテ操縦シ得ヘキ標的ヲ用ヒ實況ニ近邇セル敵線ノ状態ヲ現ハシ若クハ實員ノ兩部隊ヲ以テ對抗演習ヲ行ハシムヘシ

小部隊ノ戰鬪演習ニ在リテハ射擊ノ指揮及銃ノ用法ヲシテ目標ノ景況ニ伴ハシムルヲ要ス之カ爲殊ニ敵線表示ヲ實況ニ近カラシムヘシ

第七十九

演習ニ於テ工事ヲ實施シ能ハサルトキト雖其計畫及準備作業ハ嚴密ニ行フヘキモノトス

第八十

演習ヲシテ實戰的ナラシムルニハ現時ノ狀況ニ應ジ地形ヲ利用シテ適當ノ制式ヲ選擇スルニ在リ而シテ之ヲ選擇スルニハ先ツ我兵器ノ効力ヲ熾大ニシ次ニ敵火ノ効力ヲ減殺シ得ル如ク顧慮スルヲ肝要トス

演習ニ於テハ實戰ニ於ケル如ク危険ノ感情及不利ノ影響ヲ與フルコトナキヲ以テ其經過動モスレハ過早ニ失シ實戰ニ適合セサル動作ヲ生スルモノトス故ニ小部隊ノ演習ニ於テモ審判官ヲ設ケ適時ニ敵火ノ効力ヲ通告セシメ以テ各指揮官ヲシテ演習ヲ實戰的ニ遂行セシムル如ク指導スルヲ要ス

第百八十一

諸演習及全教育期ノ經過間ニ於テ歩兵ニ攻

撃ヲ好ムノ氣象ヲ養成シ又何等ノ時機ニ於テモ指揮官ノ意圖ニ從ヒテ十分射撃効果ヲ發揚シ猛烈果敢ニ突撃シ得ル如ク慣習セシムルヲ要ス

第百八十二

平時教練ニ於ケル主要ナル要求ハ軍隊ノ志

氣ヲ養成振起シ且ツ軍紀ヲ緊張スルニ在リ故ニ之カ爲有効ナル方法ハ總テ之ヲ實施セサルヘカラス而シテ諸般ノ演習ニ於テ諸制式ノ實行ヲ嚴格ナラシムルトキハ此要求ノ大部分ヲ達成シ得ルモノトス

演習ニ於テ些少ト雖此方針ヲ等閑ニ附スルトキハ全ク戰鬥ノ要求ニ適セサルノミナラス却テ教練ノ目的ヲ害スルニ至ルモノトス然レトモ操典ノ制式ハ最モ單一ナル狀況ニ基キ定メタルモノナルカ故ニ戰況ト地形トニ適應セシムル爲之ヲ變化スヘキ必要

ヲ生スルモノトス而シテ此場合ニ於テ縦令諸部隊ノ混淆スルコトアリトモ必ス嚴格ト秩序トヲ失ハサルヲ要ス

第百八十三

部下ノ體力ハ適時ニ之ヲ愛惜スルコトニ願慮スヘシ蓋シ必要ノ時機ニ當リテハ毫モ愛惜スルコトナク之ヲ使用シ過劇ノ勞働ヲ要求セサルヘカラサレハナリ

第百八十四

檢閲ニ際シ上官ハ主トシテ指揮官並ニ軍隊ノ制式ト原則トノ實踐及應用ノ習熟程度如何ニ着意スルヲ肝要トス

檢閲者ノ着眼及講評ハ軍隊ノ進歩發達ニ關シ著大ノ影響ヲ與フ

ルモノトス

第百八十五

諸兵連行ノ演習及其連合ヲ想定セル戰鬪演習ニ在テリハ種々ナル狀況ヲ規出シ之ニ應スル戰術上ノ決斷ハ遙ニ操典ノ範圍外ニ出ツルモノトス蓋シ操典ハ戰術學ヲ網羅スルモノニアラスシテ單ニ步兵戰鬪ノ基準トナルヘキ原則ヲ示スノミナレハナリ然レトモ軍隊ハ演習ニ依リ操典ノ原則ヲ我有ト爲シ得タルトキハ實戰ニ於テモ亦諸般ノ任務ヲ盡シ得ヘシ軍隊若シ戰爭ノ要求ヲ充足スルコトヲ得且ツ平時ニ於テ習得シタル事項ニシテ毫モ戰場ニ於テ廢棄セラレサルトキハ軍隊ノ教練ハ

正當ナル主旨ニ基キ實旃セラレタルモノナリ

第一章 一般ノ原則

第百八十六

諸兵種ノ適當ナル協同動作ハ戰鬪ニ好果ヲ

與フルモノトス然レトモ歩兵ハ戰鬪ノ主兵ニシテ勝敗ノ運命ヲ左右スルモノナルカ故ニ縱令他ノ援助ヲ缺ク場合ニ於テモ尙ホ毅然トシテ戰鬪ヲ遂行シ得サルヘカラス

第百八十七

歩兵ノ戰鬪ハ頗ル韌強ノ性質ヲ有シ且ツ至

大ノ犠牲ヲ供スルモノナルカ故ニ歩兵ハ其體力及氣力ニ於テ堅忍持久ヲ要スルコト亦甚大ナリトス殊ニ勝敗將サニ岐レントス

ルノトキハ戰鬪ノ慘狀モ亦其極ニ達スルモノニシテ此際克ク奮

闘ヲ繼續セハ已ニ我ト同一若ノハ其以上ノ苦境ニ在ル敵ヲシテ

先ツ抵抗ヲ斷念セシメ以テ光輝アル勝利ヲ獲ルニ至ルモノトス

第百八十八

歩兵ノ戰鬪手段ハ火戰及白兵戰トス白兵戰

ハ決勝ノ爲有効ニシテ缺クヘカラサルモノニシテ火戰ハ戰鬪經過ノ大部分ヲ占ムルモノトス而シテ完全ニ火力ヲ發揚スルハ散開隊形ニ若クモノナシ密集隊形ハ被害多ク銃ノ使用便ナラス從ヒテ此隊形ヲ用ヒ射撃スルハ稀有トス

第百八十九

歩兵ハ苟モ人ノ通過シ得ヘキ地ニ於テハ如

何ナル所ト雖戰鬪シ得ルヲ要ス縱令十分武装シタルトキニ於テ著大ノ障礙物ニ逢フトモ尙ホ之ヲ跋渉シ得サルヘカラス散開隊形ハ此要求ニモ亦適スルモノトス

第百九十

散開隊形ハ步兵戰鬪ノ主要ナル制式ニシテ之ヲ

以テ戰鬪ヲ開始スルノミナラス許多ノ場合ニ於テ戰鬪ノ局ヲ結フモノトス然レトモ散開隊形ノ指揮ハ困難ニシテ殊ニ地形ノ斷絶、蔭蔽及戰鬪ノ喧噪ハ益々其度ヲ増加スルモノトス而シテ此困難ニ克ツハ教練ノ最モ難事トスル所ニシテ散開隊形ノ動作ハ軍隊教練ノ精粗及軍紀ノ張弛如何ヲトスルニ足ルモノナリ是レ

各兵卒ハ指揮官ノ指揮ニ遠カルニ從ヒ其獨斷專行ヲ要スルコト益々多ケレハナリ故ニ散開隊形ニ於ケル動作ハ密集隊形ノ應用ヨリモ一層習熟セシムルヲ要ス

第百九十一

密集隊形ハ軍隊ヲ狭小ナル區域ニ集團シ確

實ニ掌握シテ動作セシムルニ便ナルヲ以テ戰鬪間散兵ノ支援及戰鬪ヲ實行スル爲控置セル部隊ニ適用シテ價値アリトス然レトモ密集部隊ヲ最前線ニ使用スルハ例外ノ場合ノミ

散開戰鬪

第百九十二

戰鬪ニ方リテハ先ツ敵トノ觸接ヲ求メ且ツ

我動作ノ自由ヲ保ツコト肝要ナリ之カ爲敵狀及地形ノ搜索ハ如何ナル場合ト雖之ヲ中絶スルコトナク又最初ノ散開ニハ兵力ヲ節約シ且ツ其時期モ過早ナラサルヲ要ス

第百九十三

嗣後ノ處置ハ暫ク戦闘ヲ持久スヘキカ又ハ直ニ決戦ヲ求ムヘキカニ由リテ差異アルモノトス決戦ヲ求ムル爲戦闘ヲ實行スルニ方リテハ十分ナル火力ヲ發揚スルヲ要ス之カ爲有効ナル手段ハ散兵線ノ延長ト密度トヲ敵ニ優ラシムルニアリ然レトモ延長ニハ自ラ一定ノ限界アリ若シ一部隊ノ負擔スル正面過廣ナルトキハ死傷ノ爲散兵線ノ密度ヲ減シ遂ニ火力ノ

優勢ヲ維持シ能ハサルニ至ルモノトス

故ニ決戦ヲ行ハントスル正面ニ於テ終始敗兵ノ密度ヲ適當ニ維持セントセハ戦時人員一中隊ノ正面幅ヲ概ネ百五十メートルスヲ適度トス然レトモ決戦ヲ求メサル正面ニ在リテハ尙ホ之ヨリ廣キ正面幅ヲ負擔シ得ヘク良好ナル射程ヲ有スルトキハ殊ニ然リトス

第百九十四

當初ノ散開ニハ種々ナル疎密ノ度ヲ與ヘ得ヘシト雖已ニ戦闘ヲ實行スルニ方リテハ兵力ノ増加ニ由リテ散兵線ハ濃密トナルモノトス

地形若シ遮蔽シテ十分敵ニ接近スルコトヲ許サハ直ニ濃密ナル散兵線ヲ用ヒ得ヘシト雖之ニ反シ長ク敵火ノ下ヲ通過スルヲ要スルトキハ其被害ヲ避クル爲疎散ナル散兵線ヲ遞次ニ所望ノ地點ニ推進シ漸次ニ濃密ナル散兵線ヲ成形スルヲ利トスルコトアリ

第百九十五

損害ヲ受ケタル散兵線ノ火力ヲ維持スヘキトキ若クハ更ニ火力ヲ増大スヘキトキハ散兵ヲ増加スヘシ又時トシテハ此増加ノ機ヲ利用シテ萎靡セル散兵ヲ誘進セシムルコトアリ

第百九十六

散兵線ノ翼ヲ隣隊若クハ天然ノ障碍物ニ依托セサルトキハ常ニ熟練ナル長ニ若干ノ兵卒ヲ附シテ戦闘斥候ト爲シ側方ノ監視ニ任セシムヘシ

第百九十七

射撃目標ノ選定ハ戦術上ノ價值ニ由リテ定マルヘキモノトス而シテ許多ノ場合ニ在リテハ對抗セル敵ノ歩兵ヲ選ムヘシト雖砲兵ヲ射撃スルコトモ亦忽ニスヘカラス

第百九十八

射撃ノ開始ハ必ス十分ナル効果ヲ豫期シ得ヘキトキ若クハ射撃スルニアラサレハ敵ニ接近スルニ許多ノ犠牲ヲ供スル場合ニ於テスヘキモノトス

精練ナル軍隊ハ縱合敵火ノ下ニ在リテモ我射撃ノ効力ヲ現ハス能ハサルトキハ自若トシテ漫リニ射撃セス

第百九十九

火戰ノ初ヨリ常ニ其携帶スル彈藥數ニ限リアルコト及若干ノ彈藥ヲ射耗セハ即チ戰團力ノ若干ヲ減殺スヘキコトヲ願慮シ必ス效果アル場合ニ於テノミ發射スルヲ要ス而シテ一目標ヲ射撃スルニ決セハ戰團ノ目的ヲ達スルニ必要ナル彈藥ヲ使用スヘシ何トナレハ効力十分ナラサル射撃ハ我軍隊ノ銳氣ヲ挫折スルノミナラス敵兵ノ志氣ヲ熾ナラシムルヲ以テナリ凡ソ彈藥ヲ適當ニ節用シ(殊ニ遠距離若クハ中距離ニ於テ)決

戰ノ機ニ臨ミ好果ヲ收ムルニ必要ナル彈藥ニ不足ナカラシムルハ最モ緊要ナリトス

戰團間ノ彈藥補充ハ野外要務令ノ規定ニ從フヘシ

第二百

散兵線ノ運動ハ敵前ニ於テ施行スルモノナルカ故ニ極メテ單一ナラサルノカラス

敵火ノ効力微弱ナル間ノ運動ハ秩序ト連繫トヲ維持スルヲ主要トシ其効力著シキニ至レハ持路ヲ經テ敵ニ接近スルヲ主要トス

第二百一

地形ヲ利用セシムル爲各散兵ヲシテ整頓及間隔ヲ墨守セシムルヲ要セス然レトモ散兵線ノ各部ハ運動中行進方

向テ保持シ且ツ其正面ヲ擴張セサルコトニ注意スルヲ要ス

第二百二 敵火ノ下ニ在リテ長キ散兵線ノ側方移動ヲ行フハ不利ナリト雖敵ノ火力未タ甚シカラサル間ハ淺キ斜行ニ由リ之ヲ行フヲ得ヘシ

敵ノ射撃界内ニ於テ正面變換ヲ行フハ全ク例外トス若シ他ノ正面ニ於テ散兵線ヲ設クルノ必要ヲ生スルトキハ後方ニ在ル密集部隊ヲ新正面ニ散開シ舊散兵中不要ニ屬セルモノハ速ニ之ヲ集合スヘシ

第二百三 地形及敵火ノ關係ハ散兵線ノ各部分ニ於テ差異

アルヲ以テ一部隊ハ他部隊ニ比シ容易ニ前進シ得ルコトアリ斯ノ如キ場合ニ在リテハ一時連繫ヲ失フトモ他部ノ射撃ヲ妨害セサル限り直ニ其機會ト利益トヲ獲得スルニ努ムルヲ要ス
一部隊ノ適當ナル地點ノ占領ニ由リ以テ他部隊ノ前進ヲ容易ナラシメ得ルコト屢々之アルモノトス

第二百四 散兵線ノ運動ハ通常速歩ノ速度ヲ用ヒ敵ノ有効射撃下ニ在リテ一地區ヨリ一地區ニ達スル爲ニハ駈歩又ハ疾驅ヲ用フヘシ其經過スヘキ行程長キトキハ若干距離毎ニ停止伏臥スルヲ良トス而シテ我有効射距離ニ達シタル後ハ此停止間ヲ利

用シ散兵ハ射撃ヲ爲シテ嗣後ノ前進ヲ準備スルモノトス但シ疾驅ハ體力ヲ費スコト多キヲ以テ之ヲ用フルノ時機ハ成ル可ク過早ナラサルヲ可トス

一躍シテ經過スヘキ距離ハ土地ノ形狀、軍隊ノ状態、敵火ノ強弱等ニ由リ一定セスト雖成ル可ク短少ニ失セサルヲ要ス若シ之ヲ三四十米以下ナラシムルトキハ概シテ利益尠キモノトス前進愈々困難ナルトキハ我射撃ヲ中絶セサル爲散兵線ヲ區分シ敵火ノ状態ニ稽ヘ交互ニ前進セシムルコトアリ然レトモ其區分愈々小ナルニ從ヒ前進益々遲緩シ且ツ指揮ノ統一ヲ困難ナラシ

ムモノナルカ故ニ成ル可ク小隊以下ニ分割スルコトヲ避クヘシ

第二百五

有効ナル敵火ノ下ニ於テ一地ニ占據セル散兵線ハ動モスレハ其地ニ固着シ易ク更ニ之ヲ前進セシムルハ頗ル困難ニシテ敵ニ接近スルニ從ヒ益々其度ヲ増加スルモノトス故ニ必要以外ニ長ク停止スルヲ避ケ且ツ間斷ナク前方ニ勇進スルノ氣勢ヲ保持セシムルコトハ努力スルヲ肝要トス之ヲ要スルニ各人ハ次ノ要件ヲ銘肝セサルヘカラス即チ射撃ヲ以テ敵ヲ制壓シタル瞬時ヲ利用スル前進運動ヲ反覆繼續セハ好果ヲ得ヘキコト之ニ反シ善ク遮蔽セラレタル敵ノ射撃下ニ久シク停止スルハ徒

ラニ夥多ノ損害ヲ招クコト及退却ハ全ク自滅ニ陥ルニ均シキコト是レナリ

第二百六 攻撃ニ在リテハ追撃射撃ヲ終ヘタル後直ニ散兵ヲ集合シ現時ノ狀況ヲ顧慮シテ適當ノ位置ニ在ルヲ要ス退却ニ在リテハ敵ノ追撃ヲ受ケサルニ至リ始メテ集合スルヲ得ヘシ戰團中兵力ヲ一地ニ集ムルヲ要スルトキハ併合ヲ行フモノトス

戰團正面及縱長區分

第二百七 軍隊獨立シテ戰團スルト又ハ一翼或ハ兩翼ヲ他隊ニ依托シテ戰團スルトニ由リテ展開ノ狀態ニ差異アリ其他戰

團ノ目的、地形及敵ノ正面幅モ亦之ニ影響ス

第二百八 獨立シテ戰團スル場合ニ於テハ戰況ノ變遷ニ適應シテ展開ヲ逐次ニ施行スルノ必要アルカ故ニ最初ヨリ全兵力ヲ擧ケテ第一線ニ使用スルコトヲ得サルモノトス

戰團ノ實行ニ關スル處置ヲ決スルニ必要ナル狀況ハ戰團ヲ開始シタル後ニアラスンハ之ヲ知悉シ得サルコト多シ而シテ戰團ノ開始ニ任スル部隊ノ兵力ハ爲シ得ル限り之ヲ節約スルヲ可トス
戰團ノ開始ニ依リ戰團ノ實行ニ關スル處置ヲ決シタルトキハ配置セル部隊ヲ一時若クハ逐次ニ戰團開始部隊ニ増加シ尙ホ不時

ノ事變ニ備ヘ又ハ決戰ニ使用スル爲兵力ノ一部ヲ豫備トスルノ必要アリ豫備隊ノ兵力ハ諸種ノ狀況ニ由リテ差異アリト雖成ル可ク寡少ナラサルヲ要ス

若シ特別ナル側面掩護ヲ要スルトキハ更ニ兵力ヲ區分スル場合ヲ生スヘシト雖豫備隊ノ使用適當ナルトキハ斯ノ如キ數多ノ區分ヲ要セサルモノトス

後方部隊ノ戦闘加入ハ通常戦闘正面ヲ擴張スルニ至ルモノトス戦闘開始部隊ノ正面過廣ナルトキハ戦闘實行ニ際シテ正面過廣ニ擴張スルカ又ハ過早ニ諸單位ノ混淆スルヲ免レサルヘシ

故ニ戦闘配置ノ部署ヲ爲スニハ當初ノ正面ヲ如何ニ保タシムヘキカ又ハ縦長ニ於テ如何ナル區分ヲ爲スヘキカヲ考慮スルヲ要ス

敵ノ包圍ニ對シ兩側安全ナルトキハ正面展開ニ多クノ兵力ヲ使用シ得ヘシ

第二百九

兩翼ヲ依托シテ戦闘スル軍隊ハ側面ノ顧慮ヲ有セス故ニ直ニ第一線ニ許多ノ兵力ヲ展開シ得ヘク而シテ豫備隊ハ單ニ正面ニ於ケル戦闘ノ遂行ニ使用セラルルモノトス

一翼ヲ依托スル軍隊ハ其依托セサル翼ニ於テ正面ヲ擴張スルモ

ノトス故ニ縱長ノ區分モ亦多クノ場合ニ此翼ニ於テ行フヲ要ス
第二百十 精練ナル歩兵ハ比較的淺薄ナル配備ヲ以テスル
モ其正面ハ堅固ナリトス然レトモ地形又ハ他隊ニ依托セサル側
面ハ安全ナラサルカ故ニ適當ナル縱長ノ區分ヲ以テ之ヲ掩護ス
ヘシ

第二百十一 後方部隊ヲ正面ノ中央後ニ位置セシムルト
キハ前線ニ對スル敵火ノ餘勢ヲ被ラサル爲遠ク離隔セシムヘシ
ト雖好機ニ投シ適當ニ之ヲ使用スルコト難キニ至ラシムヘカラ
ス若シ狀況妨ケナケレハ後方部隊ノ位置ハ戰鬪線ノ翼側後ヲ適

當トス

豫備隊ノ位置ハ嗣後ニ於ケル特別ノ用途ヲ願慮スル場合ノ外狀
況ト地形トヲ參酌シ殊ニ決戰ヲ豫期スル方面ニ於ケル翼側後ヲ
適當トス若シ正面ノ中央後ニ占位セシムルトキハ之ヲ側方ニ移
動セシムルノ必要ニ際シテ時間ヲ費スコト多ク且ツ概テ敵火ノ
下ニ運動セサルヘカラサルニ至ルモノトス

第二百十一 後方部隊ノ取ルヘキ距離ハ地形、狀況殊ニ
戰鬪ノ目的ニ由リテ變化スルモノトス

豫備隊ヲ翼側後ニ位置セシムル場合ニ於テハ其兵力愈々大ナル

ニ從ヒテ爾後ノ展開ヲ顧慮シ距離及間隔モ亦増大セシムヘキモノトス

地形開豁ニシテ未タ決戦ヲ行フヲ欲セサルトキハ縱長距離ヲ大ニスルヲ要ス而シテ攻撃運動中敵火ヲ避クル能ハサルニ至ルモ歩兵ノ集束彈或ハ榴霰彈ノ爲ニ同時ニ縱方向ノ二梯隊ヲ損害セラレサル如ク注意スルヲ要ス之カ爲必要ナル距離ハ概テ三百メートルトス

己ニ決戦ヲ行ハントスルトキハ戦闘經過中ニ於テ縱長距離ヲ短縮スルヲ要ス蓋シ結局ノ時間ハ概テ短少ナルモノニシテ未タ使

用セサル軍隊ヲ區處スレハ此瞬時間ニ在レハナリ

地形蔭蔽セルトキハ距離ヲ短縮スルヲ得ヘシ此場合ニ於テハ屢々第一線ヲ速ニ援助スルノ必要アルモノトス

第二百十二 後方部隊ハ勉メテ集團シ地形ニ適合シ行進容易ナル隊形ヲ選擇スルヲ要ス然レトモ敵火ノ下ニ曝露スルニ至レハ正面廣キ隊形ヲ取ルヲ可トス

指揮官及兵卒

第二百十四 軍隊ノ行動ヲ律スルモノハ指揮官ノ意思ナリ意思剛健ナラサレハ決心モ亦屢々動搖シテ指揮自ラ錯亂シ部

下隨ヒテ遲疑ス

決心ハ任務、地形、狀況ニ由リテ定マルモノトス然レトモ任務ハ決心ノ基礎ニシテ地形ノ不利敵情ノ不明等ニ由リ其遂行ヲ躊躇スヘキニアラス

不慮ノ事變、困苦缺乏及悲慘ノ狀況ハ戰鬪ノ常態ナリ此等ノ困厄ヲ排除シ戰勝ノ効果ヲ收メント欲セハ指揮官ノ決心ハ須ラク堅確ナラサルヘカラス

第二百十五

戰鬪ノ形勢ニ從ヒ指揮官ハ各其職域ニ應シ時機ニ適當セル處置ヲ決行スルニ逡巡スヘカラス蓋シ爲ササル

ト遲疑スルトハ其方法ノ選擇ヲ誤ルヨリモ尙ホ大ナル危殆ニ陥ルモノナレハナリ

第二百十六

戰鬪間各指揮官ハ連繫ト秩序トヲ維持シ且ツ適當ニ協同動作スルコトニ注意スルヲ要ス而シテ上級指揮官ハ其掌裡ヨリ部下軍隊ノ脱逸セサル如ク監督シ下級指揮官ハ命令ヲ待ツコトノミニ拘泥スルコトナク適當ニ獨斷動作シ尙ホ其分擔シタル任務ヲ果セル後ハ速ニ其所屬部隊ニ合シ或ハ上官ノ使用ニ應シ得ル如ク注意スヘシ

戰鬪ノ範圍愈々廣ク戰況益々發展スルニ從ヒ各指揮官ニ委任ス

ヘキ獨斷ノ餘地モ亦益々大ナルモノトス故ニ各級指揮官ノ留意
 スヘキハ全體ノ範圍内ニ於テ已ノ特別任務ヲ果スチ主トシ瑣事
 ノ監督ヲ後ニスヘシ然レトモ下級指揮官ハ上級指揮官ノ意圖ニ
 從ヒ協同動作ヲ爲シ決シテ專恣ノ誤用ニ陷ルヲ許サス
 斯ノ如キ範圍内ニ於テスル適當ナル獨斷專行ハ戰鬥ニ於ケル好
 成績ノ基礎トス

第二百十七

指揮官ハ戰鬥ヲ指揮スル爲部隊ノ大小現時
 ノ狀況ヲ顧慮シ至便ニシテ確實ナル方法ヲ以テ命令ヲ下スヘシ
 先ツ單簡ナル口達命令ヲ以テ軍隊ヲ迅速ニ所要ノ方向若クハ位

置ニ至ラシメ詳細ノ命令ハ次テ之ヲ交附スルヲ利トスルコトア
 リ
 交戰中ニ在ル部隊ノ指揮官ヲ其部隊ヨリ遠隔セル位置ニ招致シ
 テ命令ヲ與フルカ如キハ總テノ場合ニ於テ之ヲ避ケサルヘカラ
 ス

第二百十八

命令ハ直屬系統ノ指揮官ニ與フルヲ通則ト
 ス要スレハ順序ヲ經由スルコトナク直ニ下級指揮官ニ命令スル
 ヲ妨ケス然ルトキハ速ニ之ヲ中間者ニ告知スルヲ要ス

第二百十九

指揮官ハ位置ノ選定ヲ緊要トス

敵ニ接近シ已ニ交戦ヲ豫期スルトキハ指揮官ハ前方ニ位置スルヲ可トス是レ敵情及地形ヲ目撃シ且ツ當初ノ展開ヲ適當ニ指揮シ又適時ノ決心ニ依リ敵ニ對シテ自己ノ利益ヲ占有スルヲ得ヘケレハナリ

戦闘間指揮官ハ敵情ヲ觀察シ部下軍隊ヲ監視シ隣隊ヲ目撃シ得ルコト及命令、報告等ノ速達スルコトヲ願慮シテ其位置ヲ選定スヘシ

第二百二十 各指揮官ハ互ニ連繫ヲ維持シ特ニ所屬上級指揮官及部下直屬ノ指揮官ニハ確實ナル連繫ヲ保持スヘシ之カ

爲所要ノ方法手段ヲ盡スヲ要ス距離遠隔セル際ハ電話ヲ使用スルヲ最モ利益アリトス

觀察セル敵情及地形其他苟モ戦闘ニ影響ヲ及ホスヘキ事項ハ速ニ報告若クハ通報スルヲ要ス

第二百二十一 指揮官ハ戦闘開始ニ先チ敵狀並ニ地形ニ關シ所要ノ搜索ヲ遂ケ以テ戦闘部署ヲ決定スルヲ要ス

第二百二十二 戦闘ヲ實行スルニ方リテ所要ニ充タサル兵力ヲ逐次ニ増加スルハ大ナル過失ニ屬ス斯ノ如クスルトキハ絶エス寡兵ヲ以テ衆兵ト戦ヒ自ラ優勢ノ利益ヲ放棄スルモノニ

シテ徒ラニ損害ヲ受クルノミナラス軍隊ノ志氣ヲ挫折スルモノナリ

第二百二十三 指揮官ハ戦闘經過中豫備隊ノ使用ニ由リテ所望ノ地點ニ決戦ヲ促シ又ハ戦況ノ變化ニ應スヘキモノトス

故ニ之カ使用ノ適否ハ戦闘ノ結果ニ重大ナル關係ヲ有ス

第二百二十四 指揮官ハ常ニ地形ノ利用ニ注意シ敵火ノ

下ニ於ケル軍隊ノ運動ヲシテ之ニ適合セシムルヲ要ス然レトモ之カ爲前進力ヲ衰退シ或ハ戦闘動作ヲ遲緩ナラシメ又ハ指示セラレタル範圍ヲ脱逸スルヲ許サス

第二百二十五 凡ソ戦勝後ニ於ケル一般ノ状態ハ動モス

レハ半途ノ成功ニ甘ンシ往々果敢ナル追撃ニ躊躇シ好機ヲ失スルニ至ルコトアリ故ニ指揮官ハ戦勝後軍隊ノ現況ニ眩惑スルコトナク敵ヲ殲滅シテ勝利ヲ一層大ナラシムル爲直ニ猛烈ナル追撃ヲ施行スヘシ

第二百二十六 中隊長ハ中隊ノ射撃目標及散兵線ノ運動

ヲ規定スルモノトス故ニ何等ノ方法ヲ以テ散兵線ノ全部若クハ一部ヲ進メテ敵ニ接近シ得ヘキカ或ハ敵ノ弱點ヲ利用シ得ヘキカニ關シ絶エス注意スルヲ要ス凡ソ前線ニ在ル指揮官ハ能ク地

形及敵ニ對シテ占有シ得ヘキ利益ヲ看破シ得ルコト多シ故ニ斯ノ如キ利益ヲ直ニ適當ニ利用スルコトニ努力セサルヘカラス

第二百二十七

小隊長ハ其小隊ヲ射撃ニ便ナル位置ニ部署シ躬ラ射撃指揮ニ便利ナル地ニ占位シ與ヘラレタル指示ニ從ヒ又ハ獨斷ヲ以テ射撃目標ヲ規定シ常ニ敵ノ動靜ニ注意シ使用スヘキ彈藥ヲ顧慮シ以テ射撃ノ應用ヲ適切ナラシメ且ツ戰鬪線中隣接セル諸小隊ト協力スルヲ勉ムヘシ

第二百二十八

分隊長ハ小隊長ヲ補翼スルノ責任アルノミナラス又屢々小隊長ニ代リテ指揮スルコトアルモノトス

分隊長ハ部下ヲ誘導シテ適當ナル位置ニ就カシシ武器ノ使用就中照尺ノ裝置彈藥ノ消費及命令ノ普及ト實行トニ關シ其責ニ任ス此他分隊長ハ必要ニ應シ自ラ射撃ヲ行フモノトス

戰鬪久シキニ亘ルトキハ散兵線ニ在ル將校ノ多數ヲ失フ之カ爲射撃ノ指揮屢々完全ナラサルコトアリ斯ノ如キ場合ニ於テ分隊長ノ動作ハ散兵線ニ著大ノ影響ヲ與フルモノトス

第二百二十九

兵卒ハ至難ノ行軍及勞働ヲ爲シ且ツ缺乏ニ堪ヘサル後戰鬪ニ移ルヲ常トス而シテ戰鬪ハ往々數晝夜ニ亘ルヲ以テ一層困難ノ度ヲ增加ス故ニ兵卒ハ剛毅勇猛ニシテ思慮

果斷及自信ニ富ミ連續セル困苦缺乏ヲ排シテ歩兵戦闘ノ慘烈ナル感情ニ堪ヘ以テ戦闘ノ要求ヲ充足シ得サルヘカラス

第二百二十、散兵線中ニ在ル兵卒ノ職務ハ重要ニシテ且ツ至難ナリ而シテ兵卒ニ位置姿勢及銃ノ使用ニ關シ大ナル自由ヲ與フレハ即チ其職務ヲ盡スニ便ナラシメンカ爲ナリ故ニ兵卒ハ機敏ニ耳目ヲ活動シ瞬間ニ判斷シ獨斷事ヲ處シ常ニ全力ヲ盡スニアラサレハ好結果ヲ得サルコトヲ銘心セサルヘカラス

第二百二十一 兵卒ハ前進中縱令敵ノ火力熾大ニシテ損害極メテ多キトキト雖命令ナクシテ停止スルハ嚴禁タリ總テ退

走ハ殲滅ニ陥ルモノニシテ猛烈果敢ナル攻撃ハ常ニ成果ヲ得ヘキモノナルコトヲ銘肝スヘシ

第二百二十二 防禦ニ在リテ兵卒ハ堅忍シテ其保ツヘキ位置ヲ固守シ決シテ動搖スヘカラス而シテ敵兵愈々接近スルニ從ヒ我火力ハ益々敵ヲ殺傷スルコト多キヲ確信スヘシ故ニ散兵ハ近距離ニ用フル爲彈藥ヲ節用シ確實ナル効果アルニ臨ミ之ヲ使用スルヲ要ス

第二百二十三 兵卒ハ全ク彈藥ヲ射耗シ若クハ敵ノ重圍ニ陥ルトモ徒ラニ喪心疑惧スルコトナク尙ホ銃劍ヲ以テ最後ノ

勝利ヲ求ムルコトヲ努ムヘシ

第二百二十四

兵卒ハ故ナク其所屬部隊ヲ離ルルヲ嚴禁

トス若シ任務ヲ帶ヒス或ハ負傷セスシテ漫リニ戦闘部隊ノ後方ニ停止シ又ハ戦闘中命令ヲ受ケスシテ負傷者ヲ介護若クハ運搬スルモノハ怯懦ノ罪ヲ免レサルモノトス兵卒若シ其所屬部隊ノ所在ヲ失フタルトキハ直ニ最近ノ戦闘部隊ニ合シ其將校若クハ下士ノ命令ニ從ヒ之ニ服従スルコト所屬上官ニ於ケル如クスヘシ而シテ戦闘終レル俊直ニ其所屬部隊ニ復歸スルヲ要ス負傷シテ戦闘ニ堪ヘサル兵卒ハ其所有スル彈藥ヲ戰友ニ交附シ

上官ノ許可ヲ得テ徐ロニ戦線ヨリ後退スルモノトス

第二百二十五

戦闘悲惨ノ情況ニ際シ氣力ヲ失ヒ或ハ思

慮ニ堪ヘサル兵卒ハ其所屬將校ヲ仰視スルヲ要ス將校現在セサルトキト雖下士若クハ勇敢ナル兵卒ヲ標準トスルトキハ以テ其身ヲ處スルヲ得ルモノナリ

攻撃

一般ノ要領

第二百二十六

攻撃ヲ行ハントスル軍隊ハ先ツ必要ナル

兵力ヲ其正面内ニ展開ス此展開ハ行軍縱隊又ハ一旦開進セル隊

形ヨリ分進シテ行ヒ同時ニ必要ニ從ヒ縱長區分ヲ爲スヲ要ス
直ニ展開ヲ豫期スル軍隊ノ開進ハ行軍縱隊ノ儘各部隊ヲ併列ス
ルヲ利アリトス

第二百二十七

軍隊ヲ展開スルニ方リテハ各部隊ヲシテ
地形ヲ利用シ敵眼ト敵火トヲ避ケ且ツ行進方向ヲ保持セシムル
コトヲ願慮セサルヘカラス若シ前方ニ於テ適當ナル支撐點ヲ占
領スルヲ得ハ其掩護ニ由リテ一般ノ展開ヲ行フニ便利ナリトス

第二百二十八

砲兵ノ火力ニシテ敵ヲ制壓シ得ハ歩兵ノ
攻撃前進容易ナルヘシト雖地形ヲ利用シ又ハ工事ニ據レル敵ニ

對シテハ適時ニ砲火ノ効果ヲ收得シ難キヲ以テ歩兵ハ徒ラニ砲
戰ノ結果ヲ待ツコトナク却テ彼我砲戰間ニ於テ前進ヲ企ツルヲ
要ス斯ノ如キ前進ニ由リ始メテ砲兵火ノ有効ナル協力ヲ期シ得
ヘキモノトス縱令全ク砲兵ノ援助ヲ缺ク場合ニ在リテモ獨立シ
テ攻撃ヲ遂行シ得サルヘカラス

第二百二十九

攻撃ノ進捗ハ地形及敵火ノ強弱ニ由リ其
經過ヲ異ニスト雖我射撃ノ効力ハ敵ニ近クニ從ヒ益々大ナルモ
ノナルカ故ニ攻者ハ絶エス其戰線ヲ前進セシムルコトニ努力ス
ヘシ